

第5次 飯能市総合振興計画 後期基本計画策定に向けた説明会



本日の内容

1. 企画調整課からの説明（40分程度）

- 総合振興計画とは
- 日本の現状（人口や年齢構成など）
- 飯能市の現状（〃）
- 市民意識調査
- こんなことに取り組んでいます
- 令和4～7年度にかけて、特に意識して取り組みたいこと

2. ご提案

3. アンケートの記入

総合振興計画とは

- まちの将来像を実現するために、どんなことに取り組んでいくのかを書いた「まちづくりの設計書」のようなものです。
- 市が作るあらゆる計画の土台となる、最も重要な計画です。

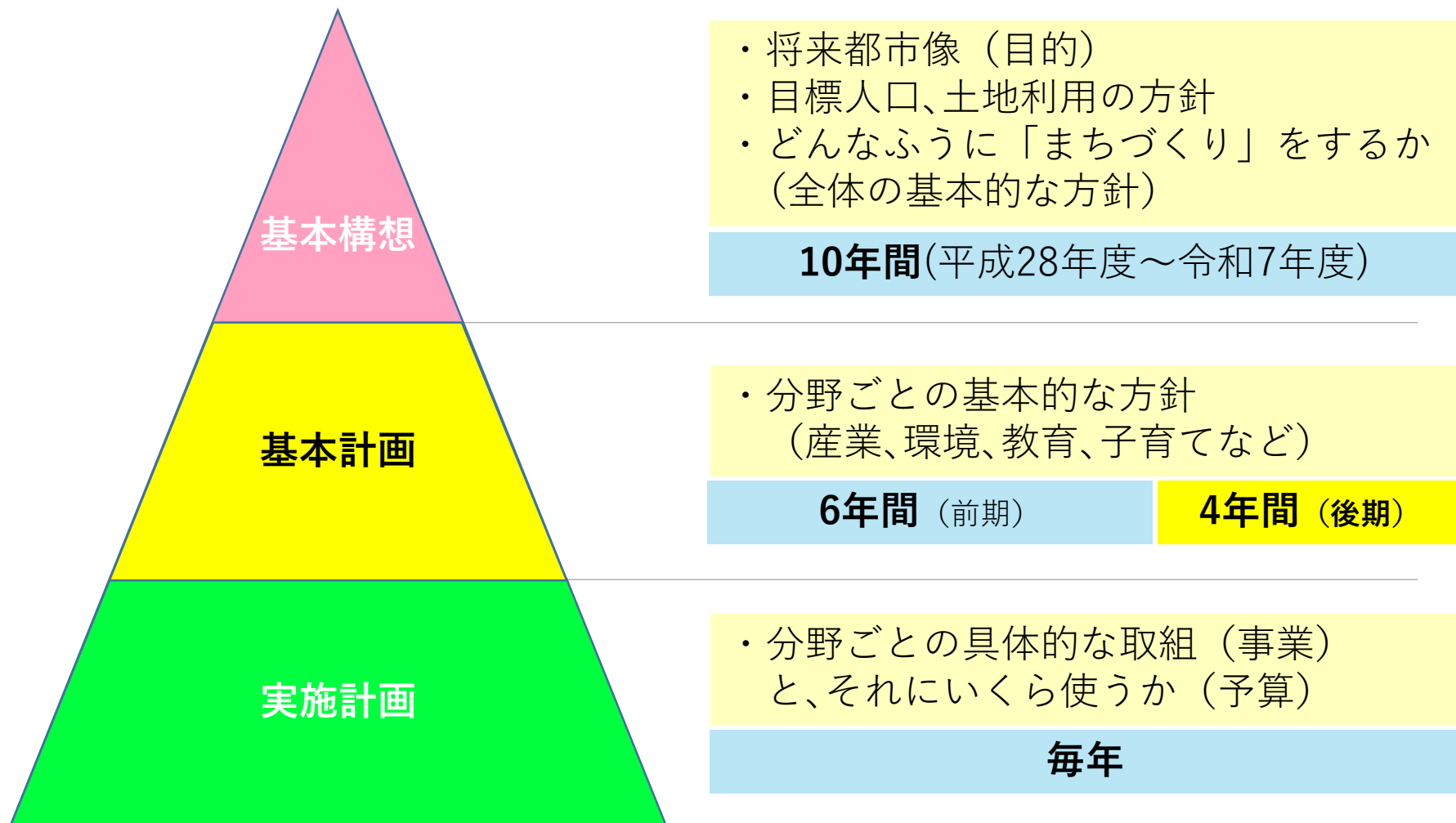
将来都市像 ～ 水と緑の交流拠点 森林文化都市 はんのう ～

- 一人ひとり、各地域、まち全体がいきいきと賑わっているまち
- 多くの人が訪れ、ここに住んでみたい!と思うようなまち
- 自然と都市機能が調和しているまち

(原文)

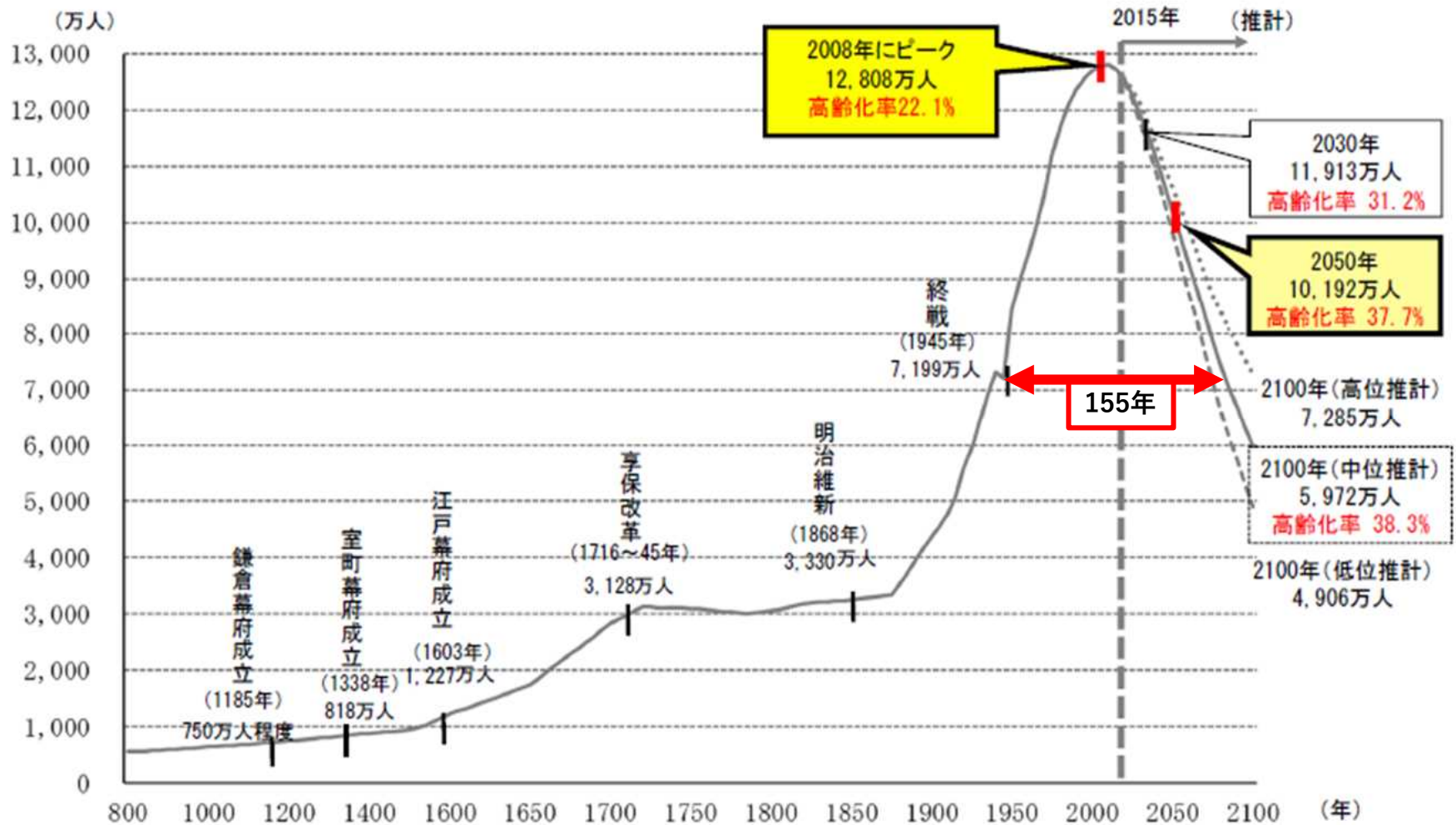
本市の最大の特徴である、都心に近く、身近で豊かな自然という良好な環境を生かし、多くの人々が自然との触れ合いを求めて訪れる集客の仕組みや基盤づくりを進めると同時に、積極的な人口流入策を講じ、コンパクトに都市機能が整い若者が集うまち、魅力ある居住環境のあるまち、趣と風格のあるまちの創生を市民・企業等と連携して戦略的に展開します。これらを通して、首都圏をはじめ内外からも多くの人が訪れ、住みたい気持ちを誘われる、ひと・まち・地域がいきいきと元気で賑わう、求心力のあるオンリーワン、ナンバーワンの森林文化都市を目指します。

「第5次」飯能市総合振興計画の構成と期間



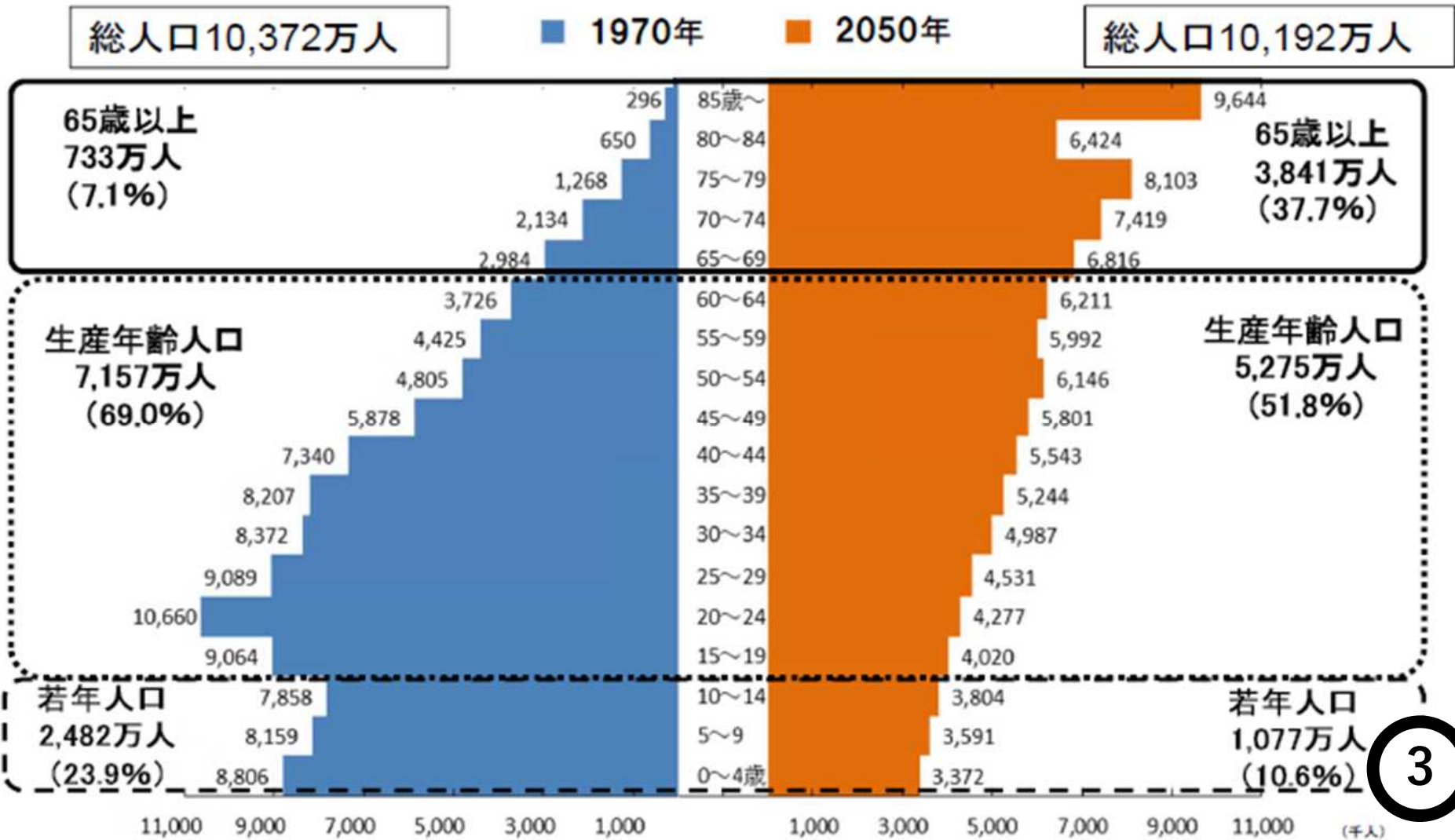
日本の総人口

- 人口の急減期に突入している
- この状況は世界中の誰も経験したことがない
- 2030年に高齢化率31.2%とあるが、本市では2020年時点で31%台に



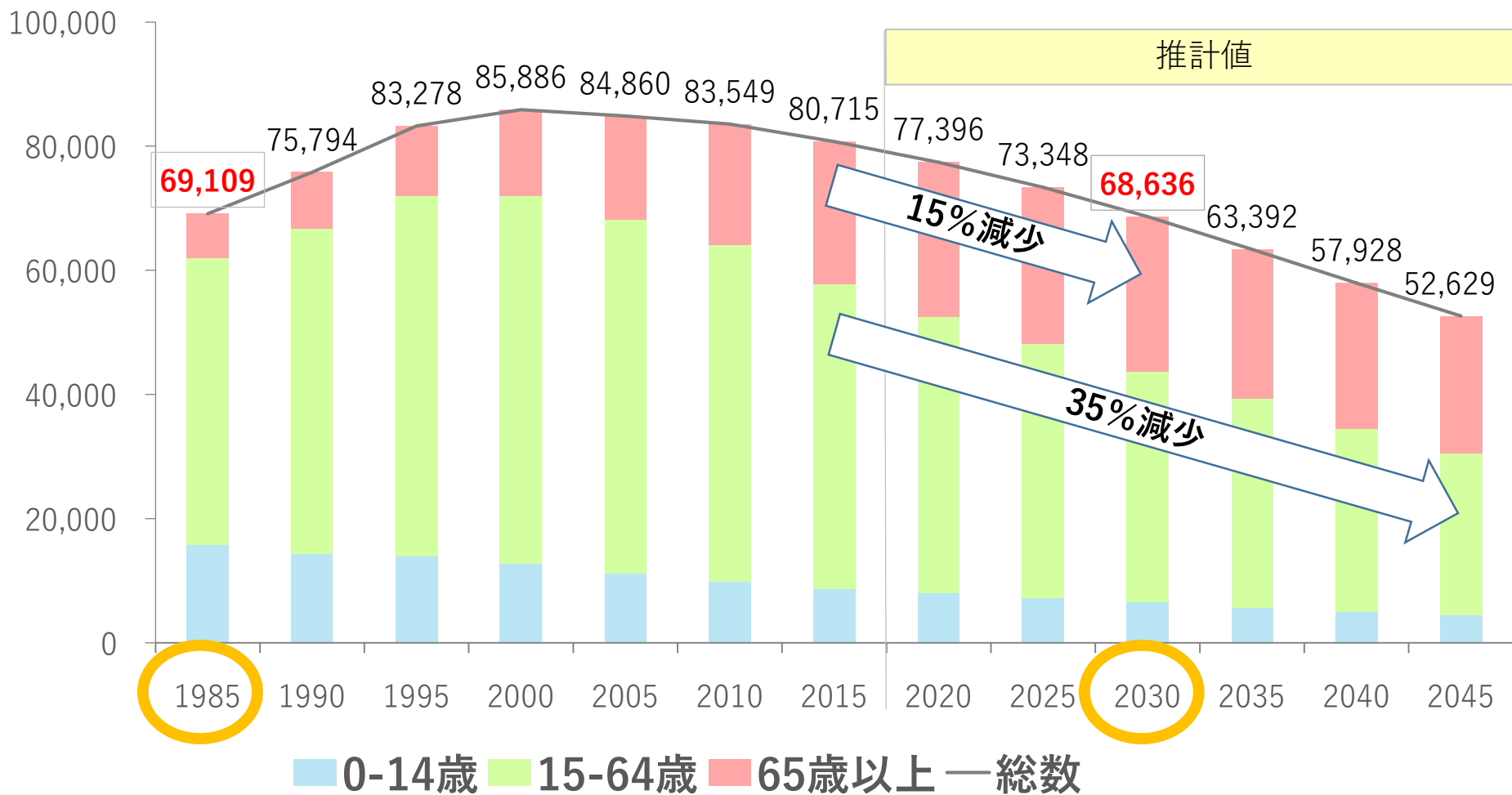
日本の年齢構成

- 1970年(青)と2050年(赤)では、人口はほぼ同じでも、年齢構成は大きく変化
- 超少子高齢社会 ～ピラミッド型から逆ピラミッド型へ～
 ※高齢化率7%…高齢化社会、14%…高齢社会、21%…超高齢社会



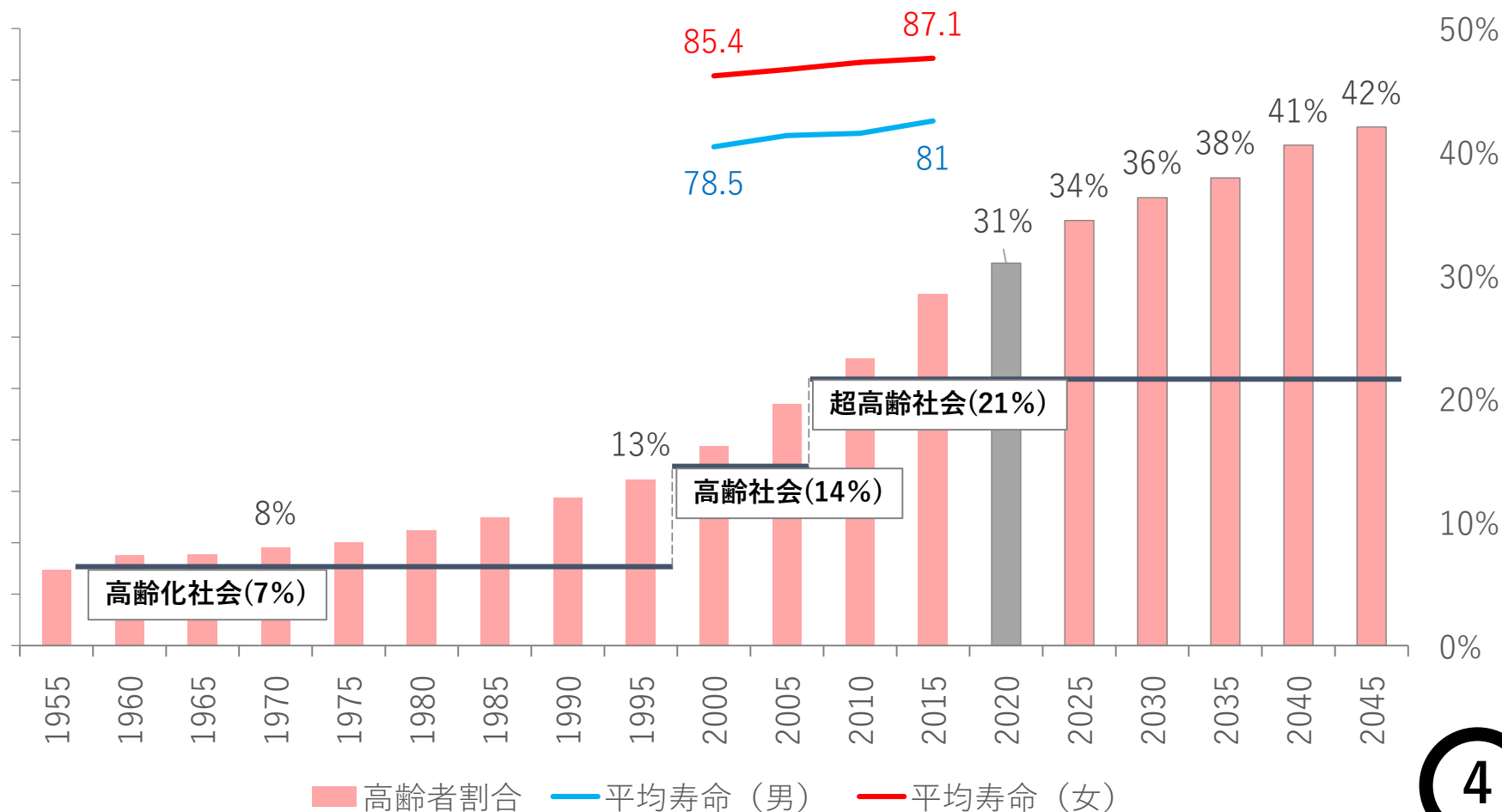
飯能市の人口推移と将来推計

- 最新の人口 78,877人 (2021.5.1現在)
- 2015年から2030年までの15年間で1.2万人(15%)、2045年までの30年間で2.8万人(30%)減少してしまう推計
- 1985年と2030年では、人口は500人くらいしか差がないが、年齢構成は大きく変化



飯能市の高齢化率(65歳以上)と平均寿命

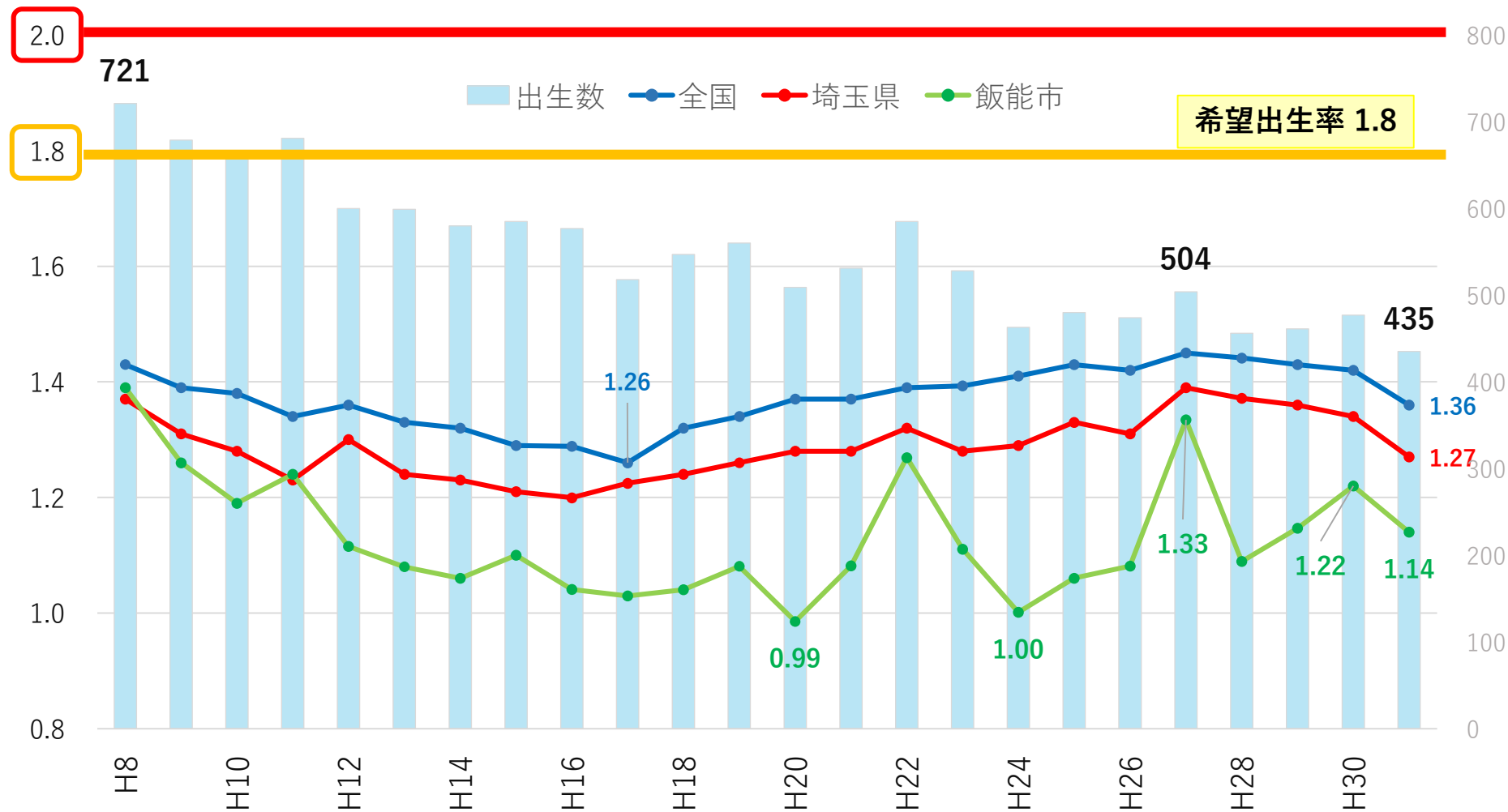
- 飯能市では2030年頃まで高齢者数が増加しつづけ、その後しばらく横ばいで推移
- 65歳未満人口は減少し続ける
- 第1次ベビーブーム世代が後期高齢者(75歳以上)になる2025年まであとわずか



合計特殊出生率※と飯能市の出生数

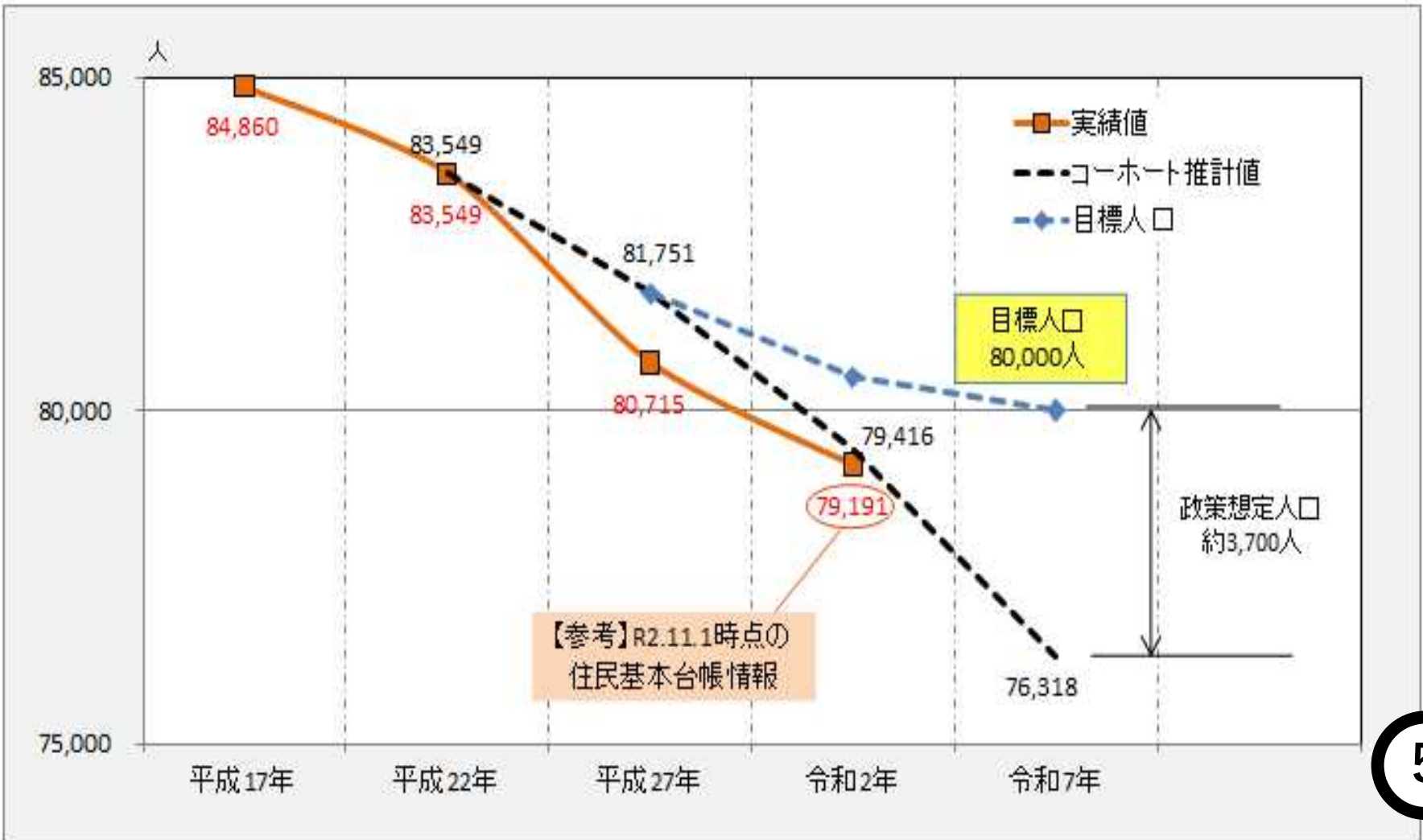
※15歳～49歳までの女性が一生の間に産む子供の数

- 全国平均 > 県平均 > 飯能市
- 飯能市の出生数も減少傾向
- 仮に出生率が2.1を超えても、人口が安定するのは60年以上先と言われている
- 希望出生率（希望する出生率）は1.8



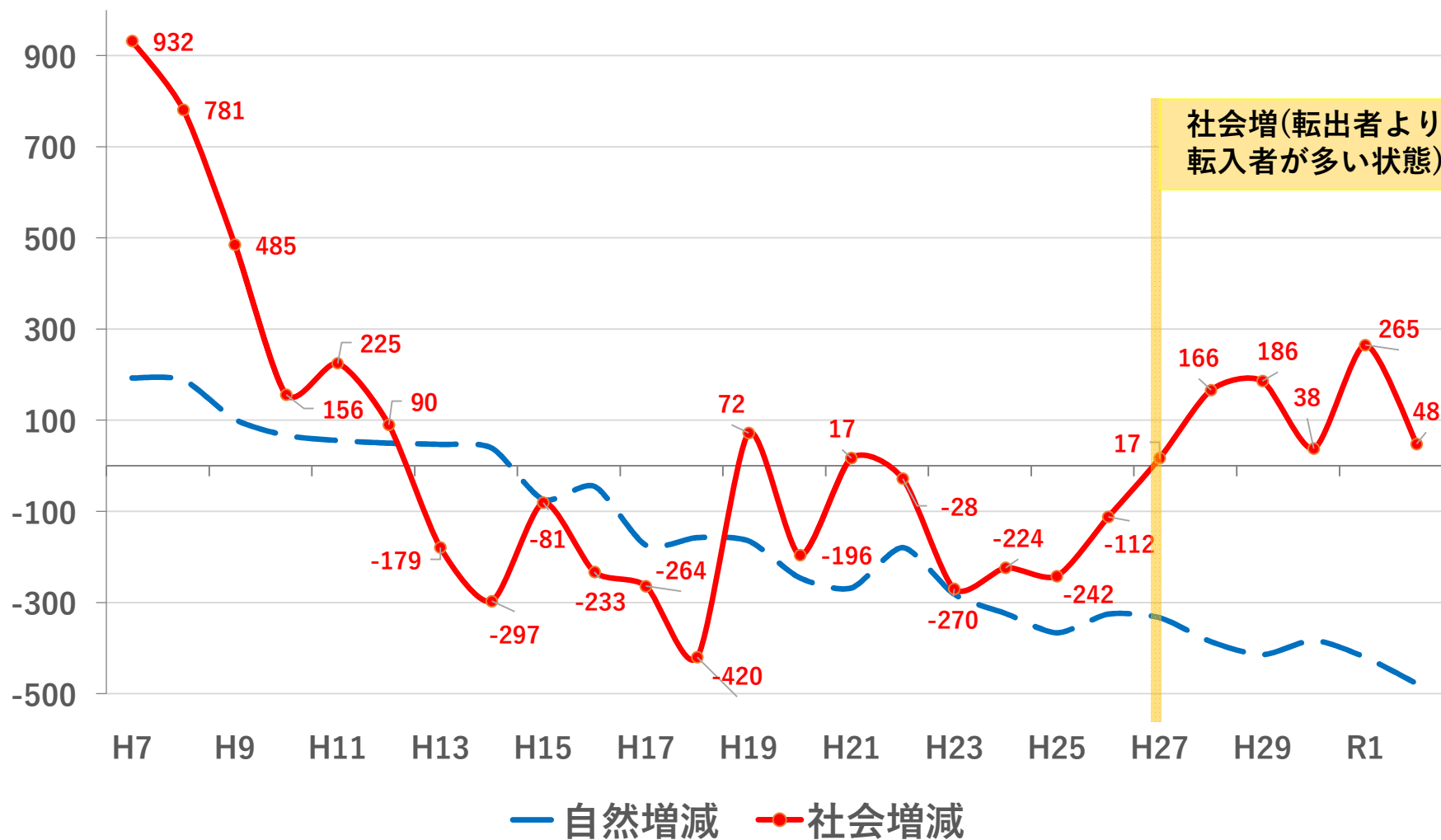
飯能市の人口の推移

- 10年前までは、推計値（黒点線）よりもさらに人口減少が進んでいた（橙線）
- 平成27年以降、人口の社会増減がプラスに転じ、減少幅が緩やかになった
- 令和2年に推計値に追いついた



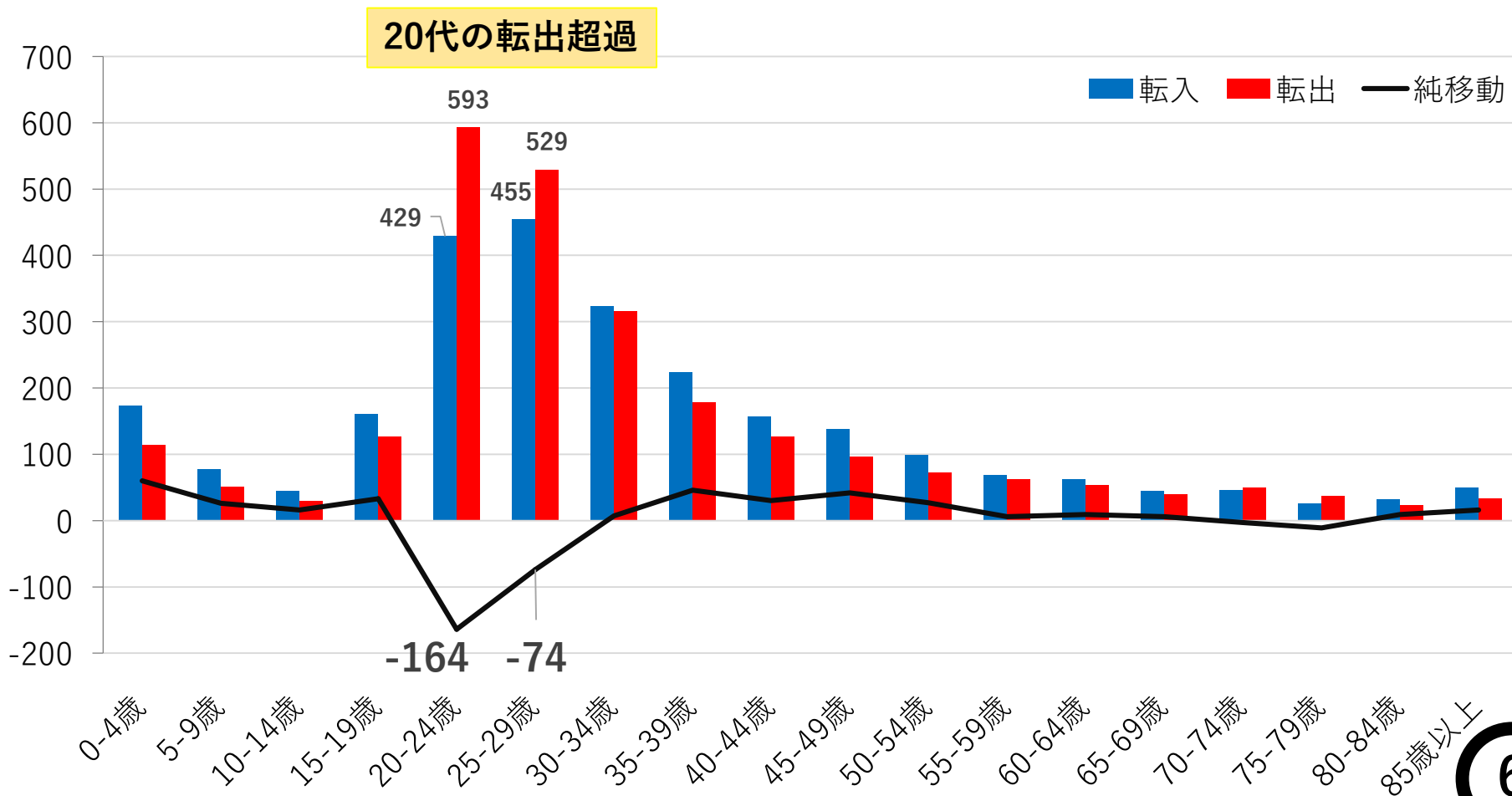
飯能市の人口の社会増減

- 平成13年以降、ほぼ毎年、社会増減がマイナスになっていた
- 平成27年から社会増減がプラスに転じ、現在もこの状況が続いている
- 平成14年以降、自然増減はマイナスが続き減少幅も広がっている

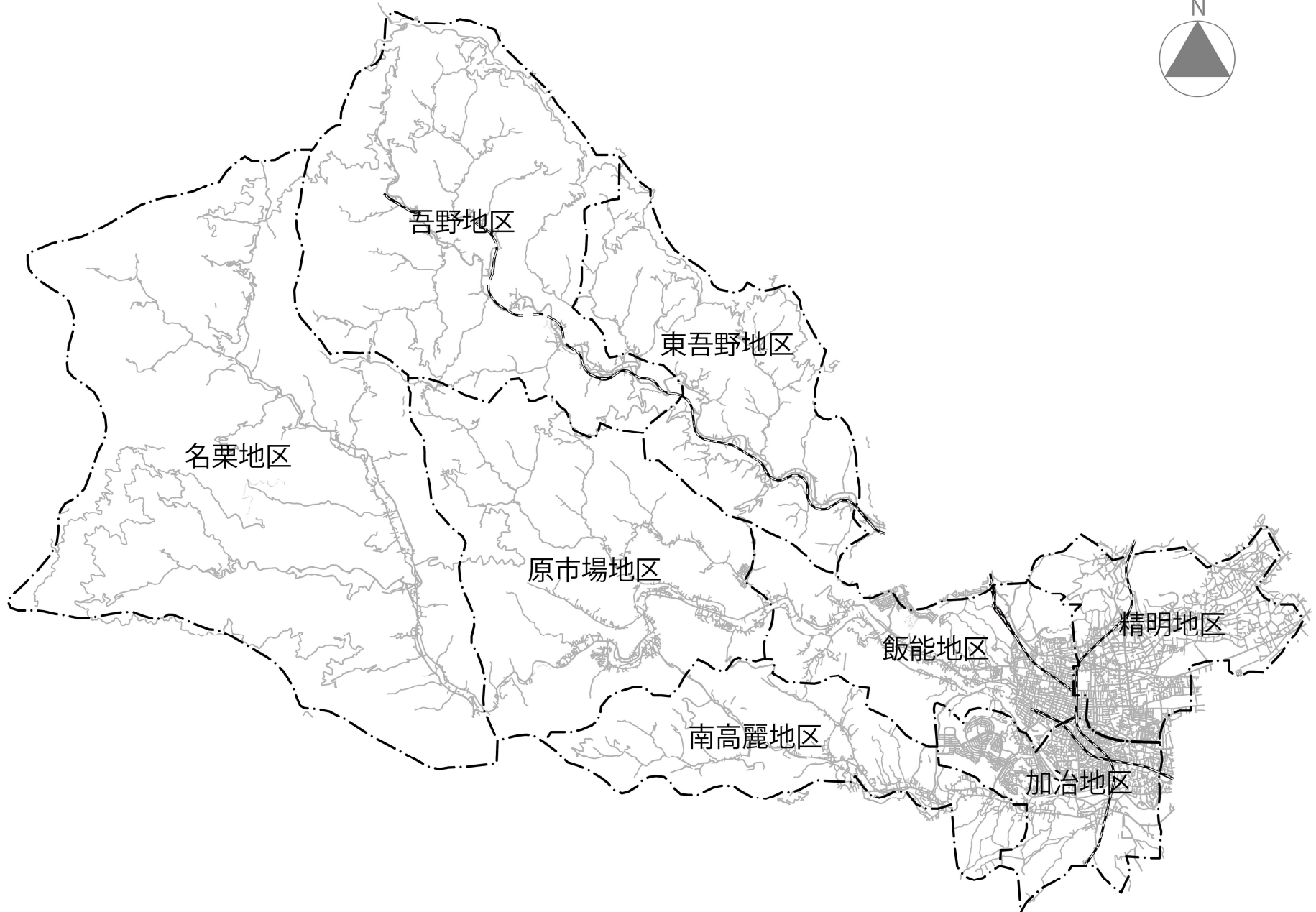
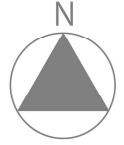


飯能市の年齢別純人口移動（2020年中の移動）

- 20代は、転入者より転出者が目立って多い
- 20代の転出先としては、入間市(95人)、所沢市(82人)、朝霞市(46人)の順に多い
- 就学及び就職で転出していると考えられるが理由は明確ではない



飯能市を構成する8つの地区



吾野地区

東吾野地区

名栗地区

原市場地区

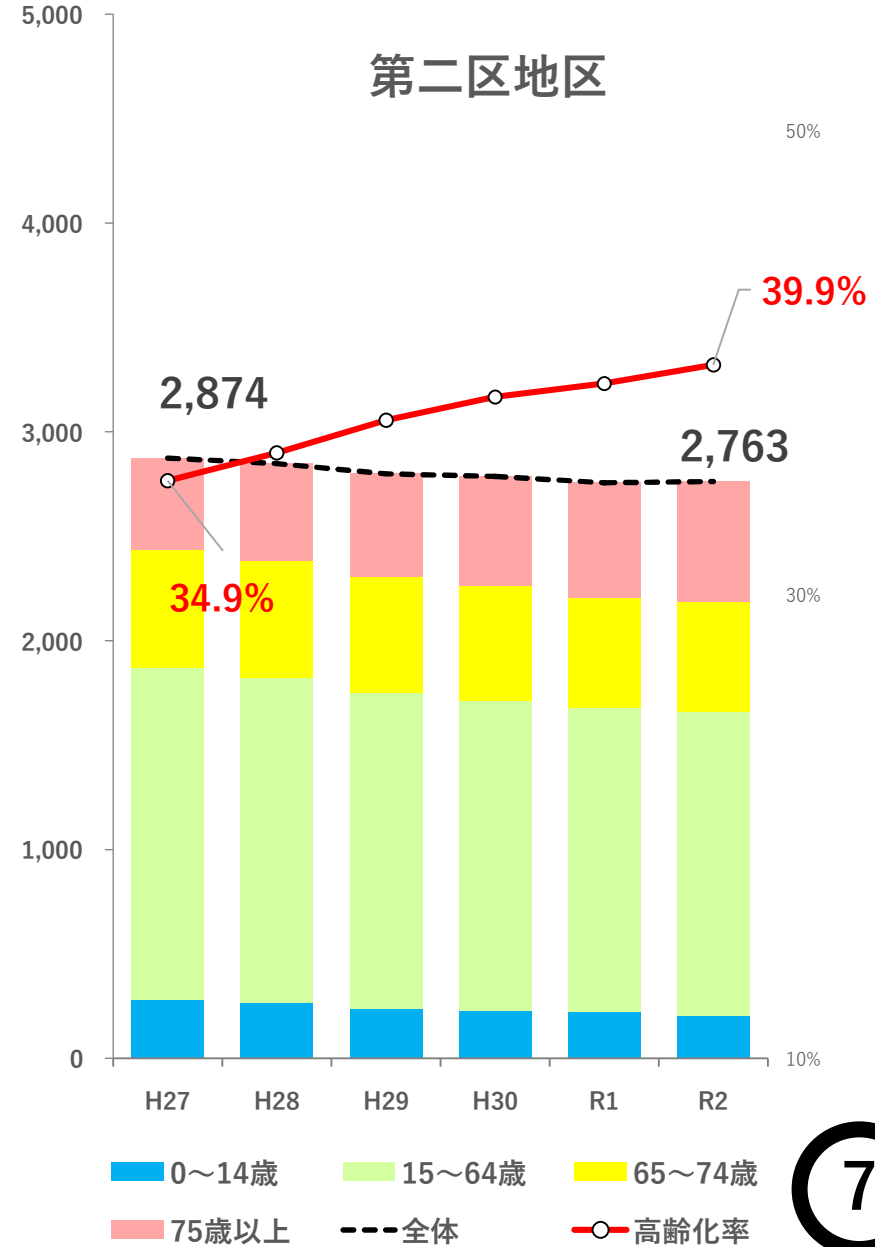
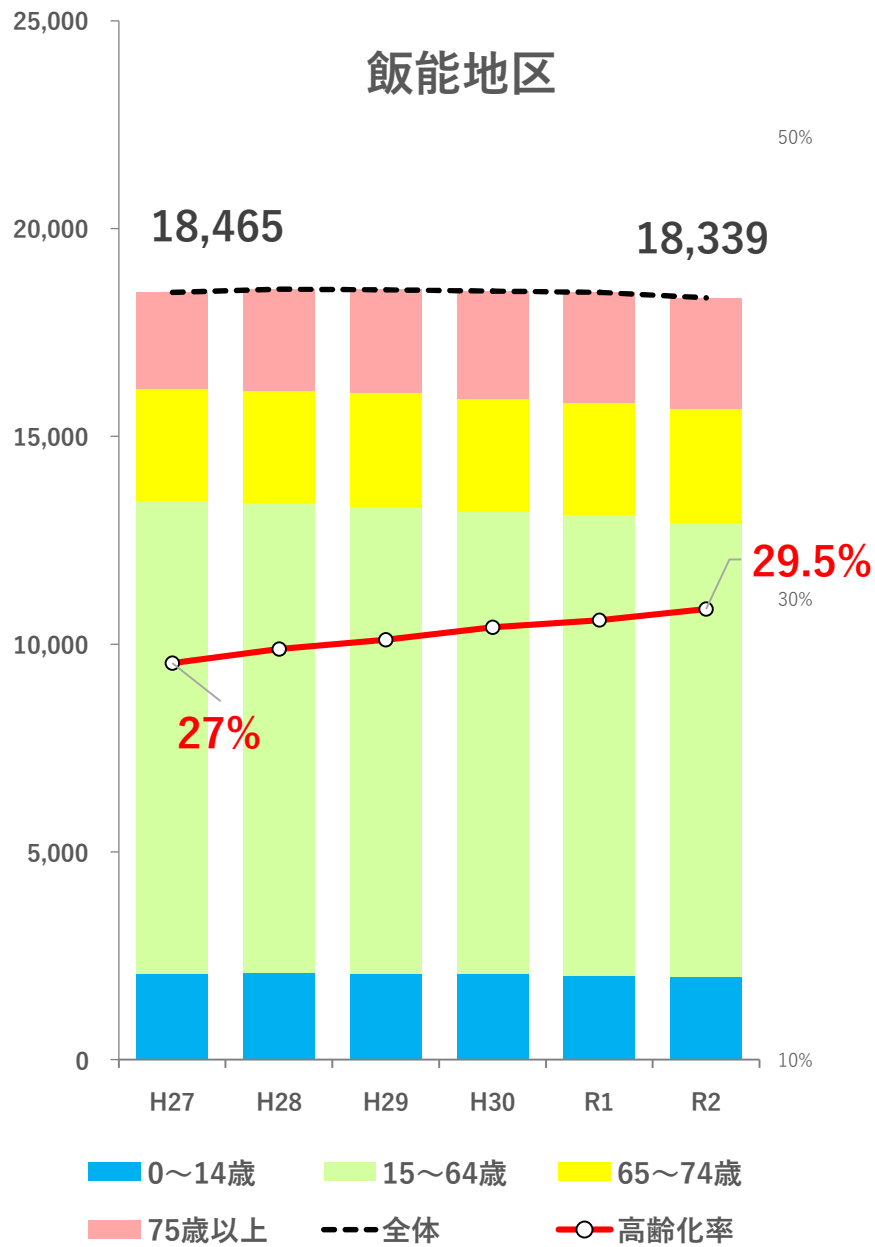
南高麗地区

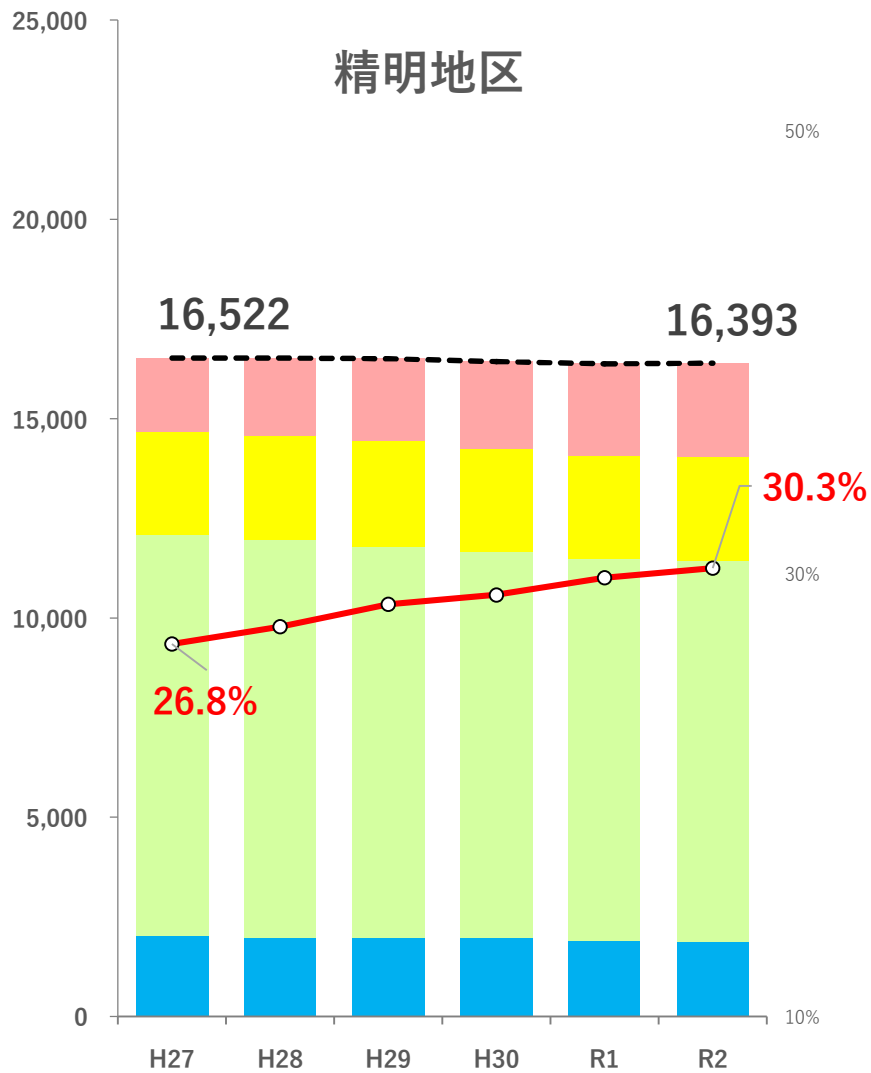
飯能地区

精明地区

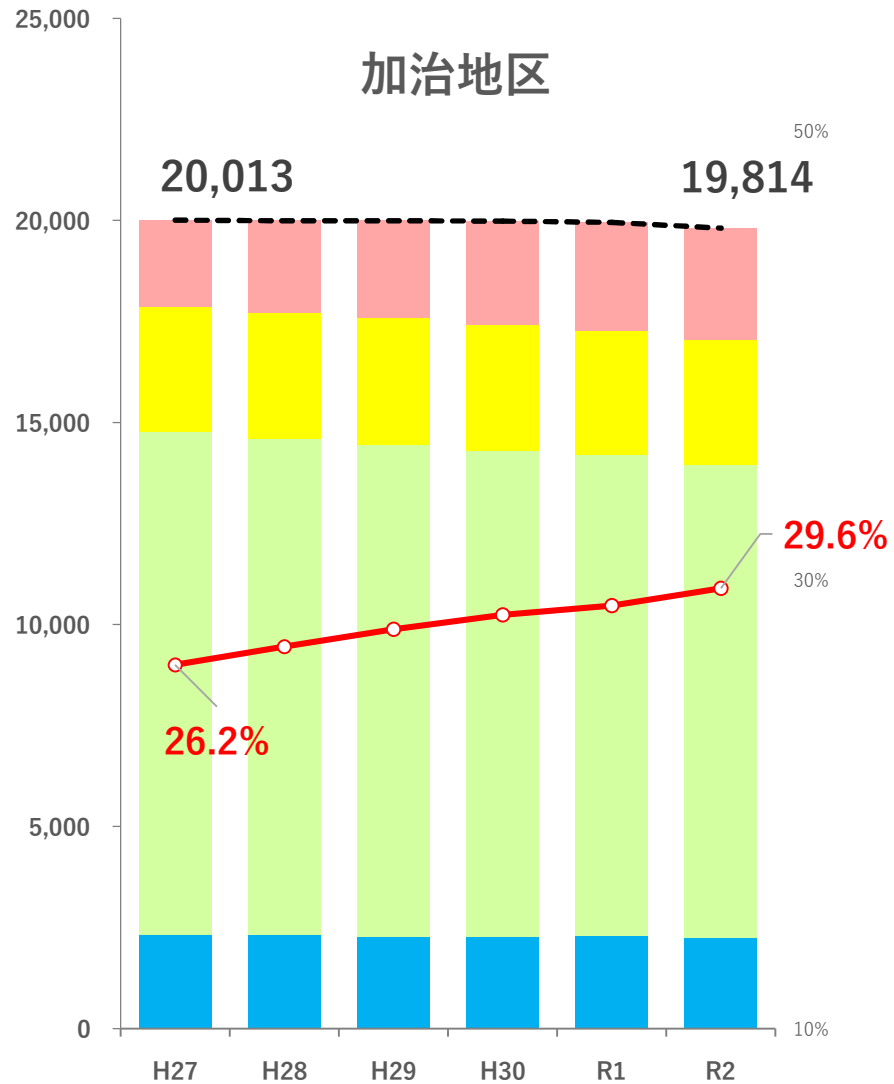
加治地区

飯能市の地区別の人口&高齢化率

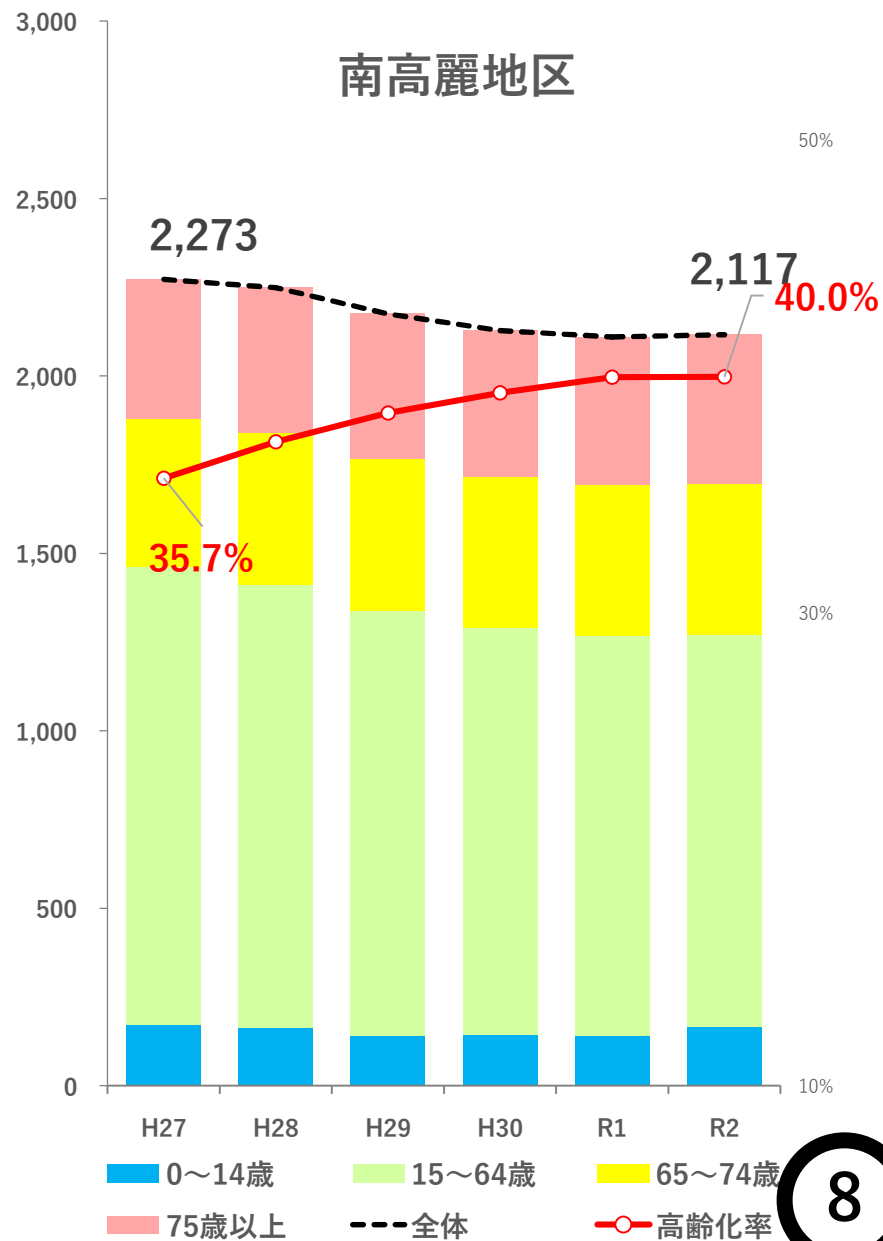
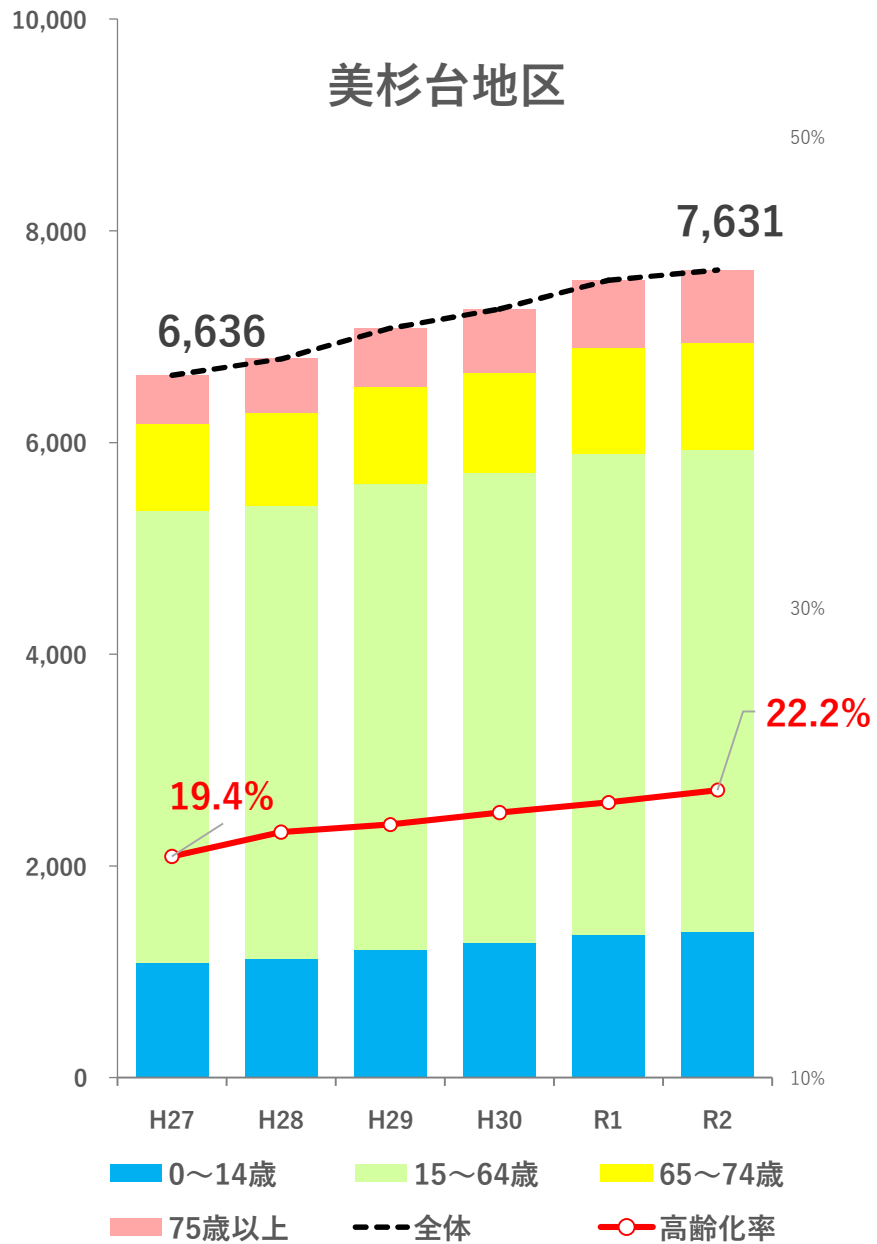


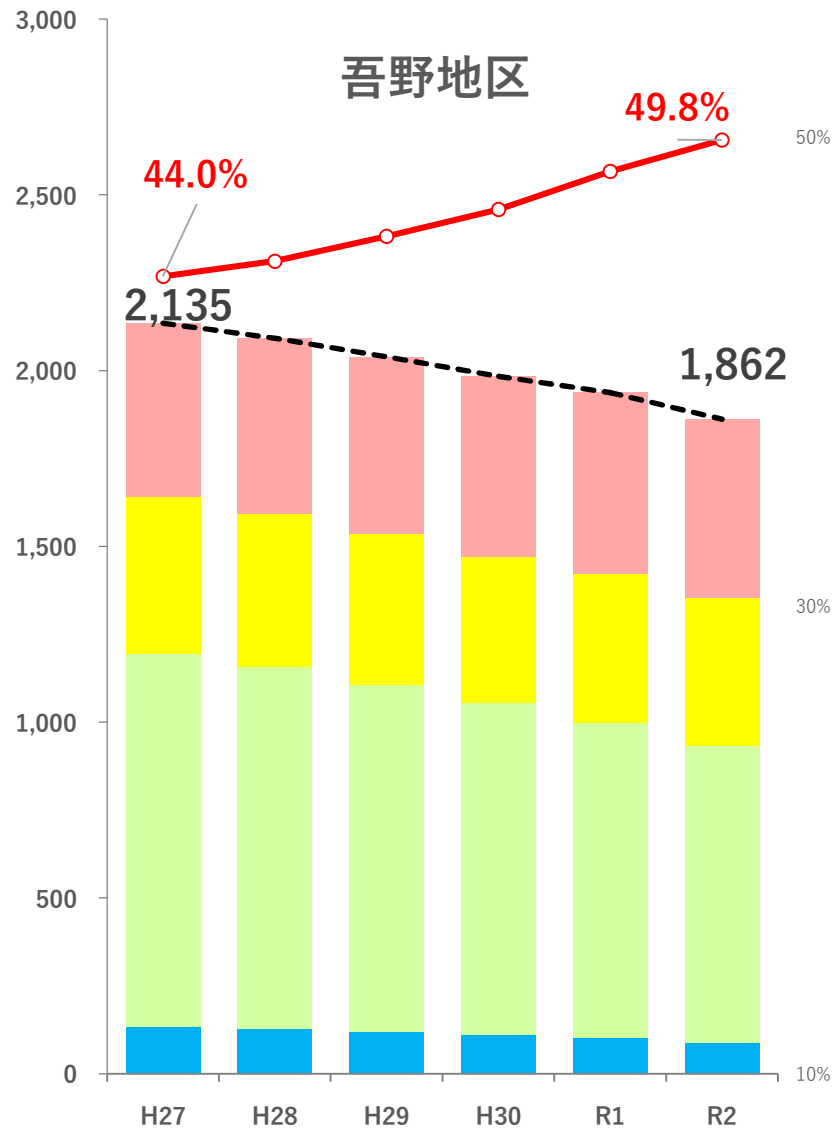
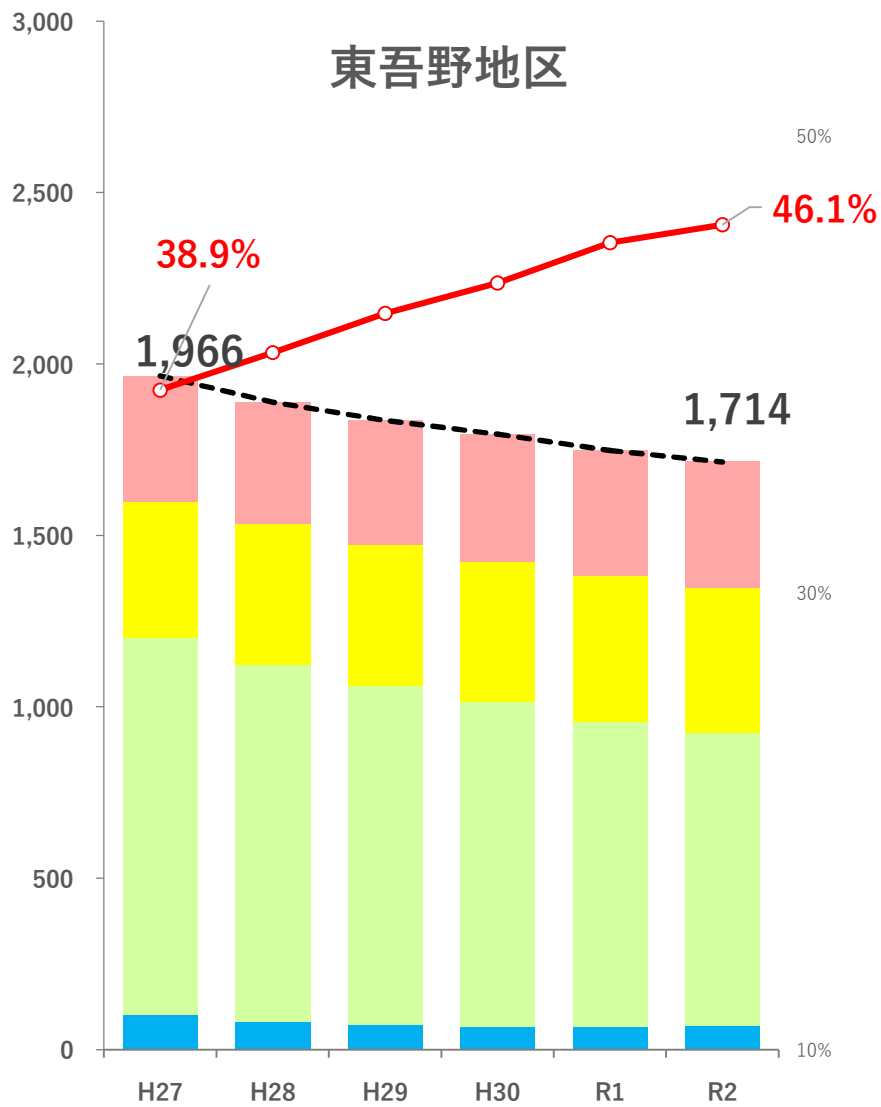


■ 0~14歳 ■ 15~64歳 ■ 65~74歳
■ 75歳以上 - - - 全体 ○ 高齢化率



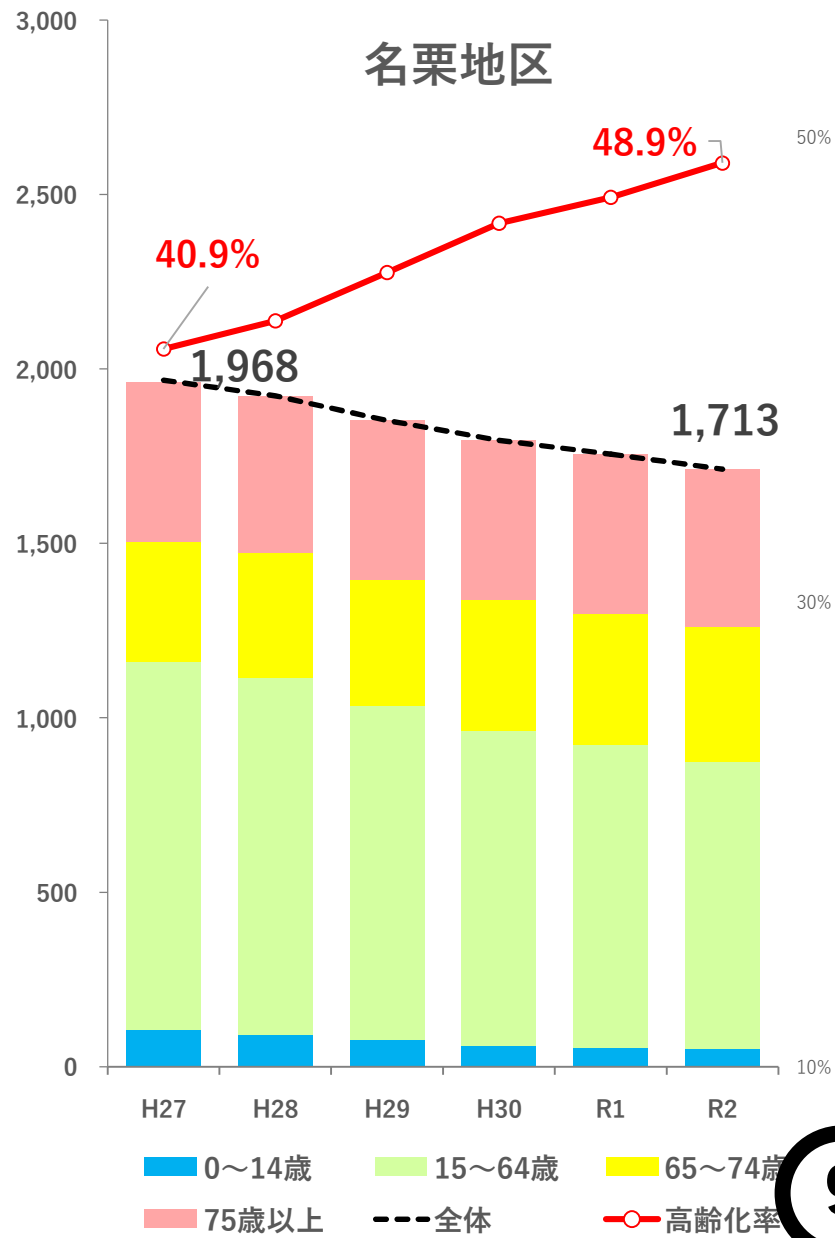
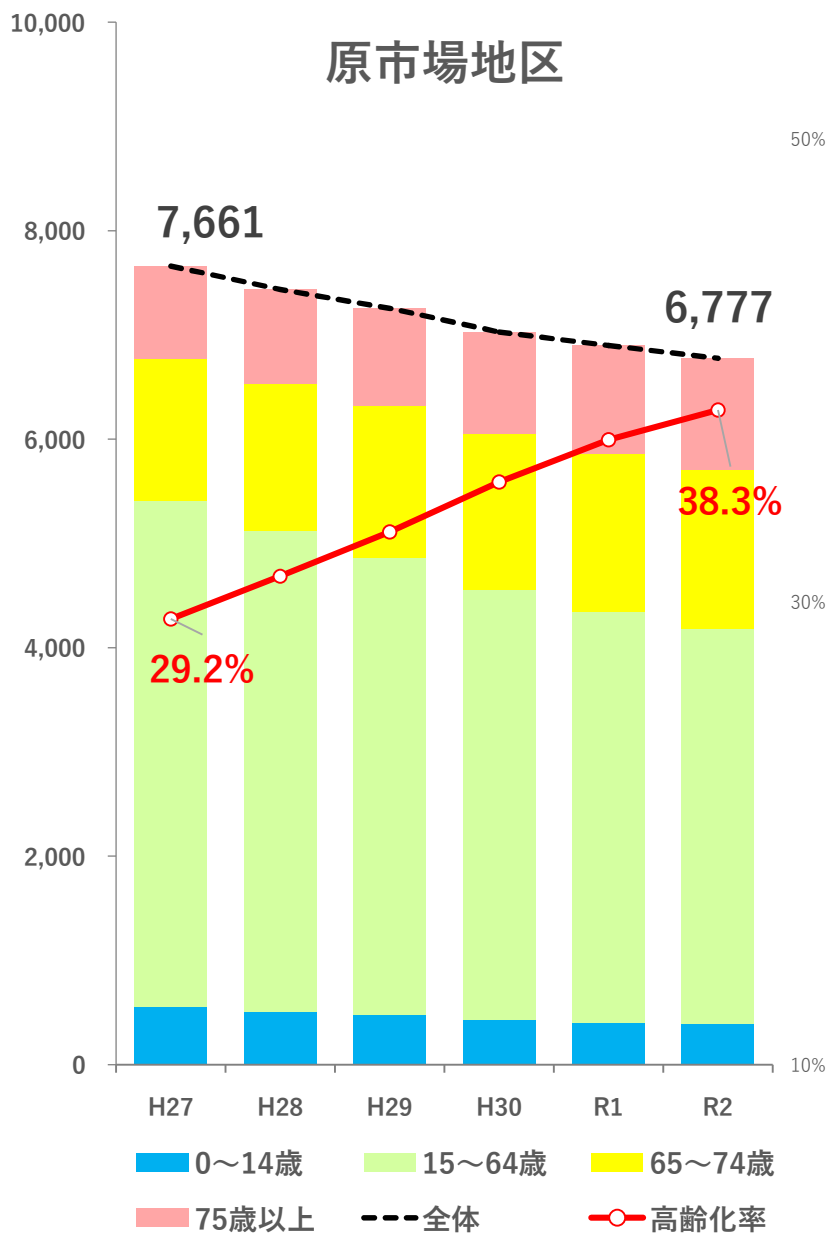
■ 0~14歳 ■ 15~64歳 ■ 65~74歳
■ 75歳以上 - - - 全体 ○ 高齢化率





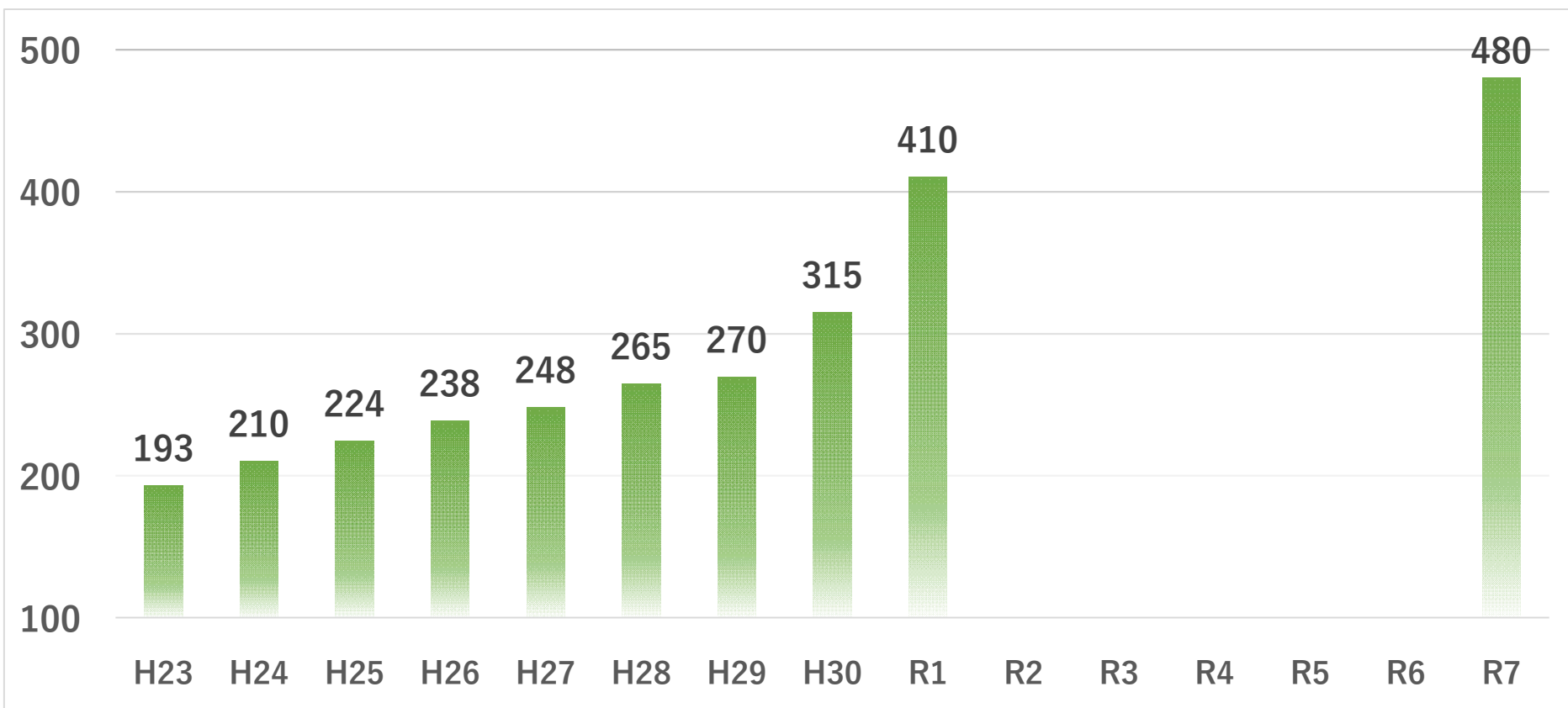
■ 0~14歳 ■ 15~64歳 ■ 65~74歳
■ 75歳以上 - - - 全体 ○ 高齢化率

■ 0~14歳 ■ 15~64歳 ■ 65~74歳
■ 75歳以上 - - - 全体 ○ 高齢化率



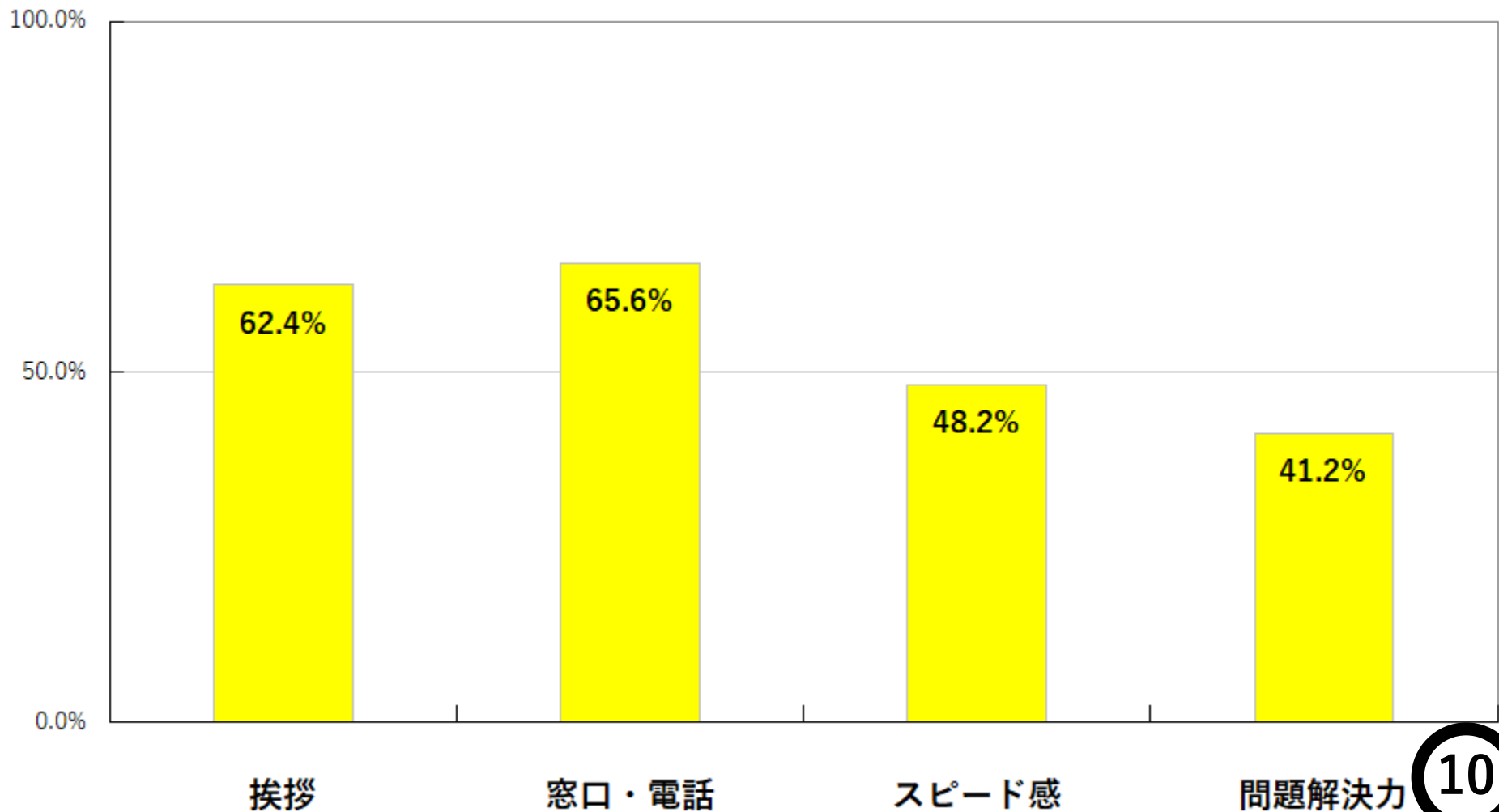
飯能市の交流人口の推移

- R1はメッツァのオープンにより大幅に増加した
- R2はコロナ禍で大幅減となった



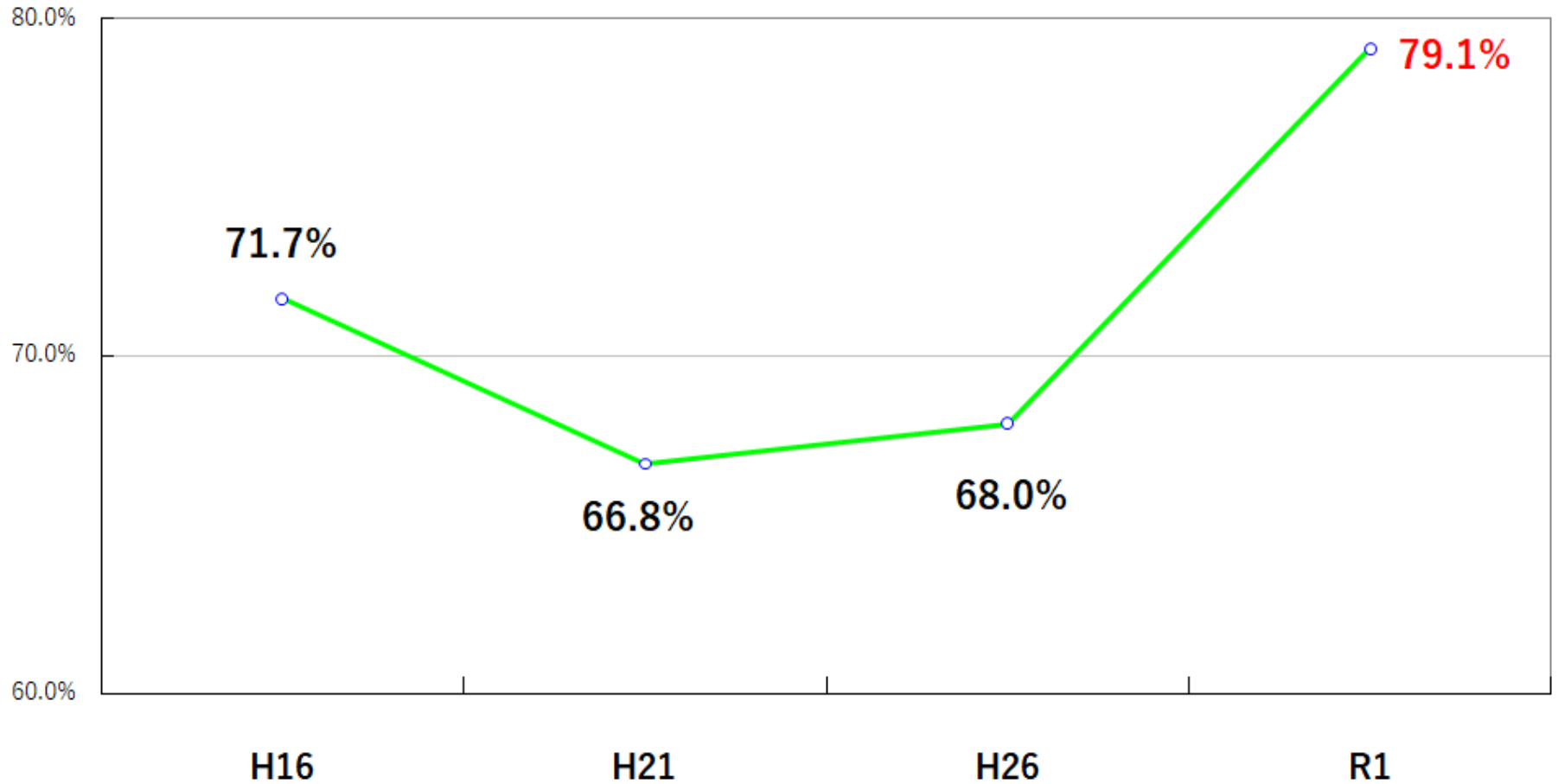
市民意識調査 < 職員対応の満足度 >

- 挨拶、電話・窓口対応は、6割以上が満足と回答
- 対応のスピード感や問題解決力に対しては、満足度が5割に満たない



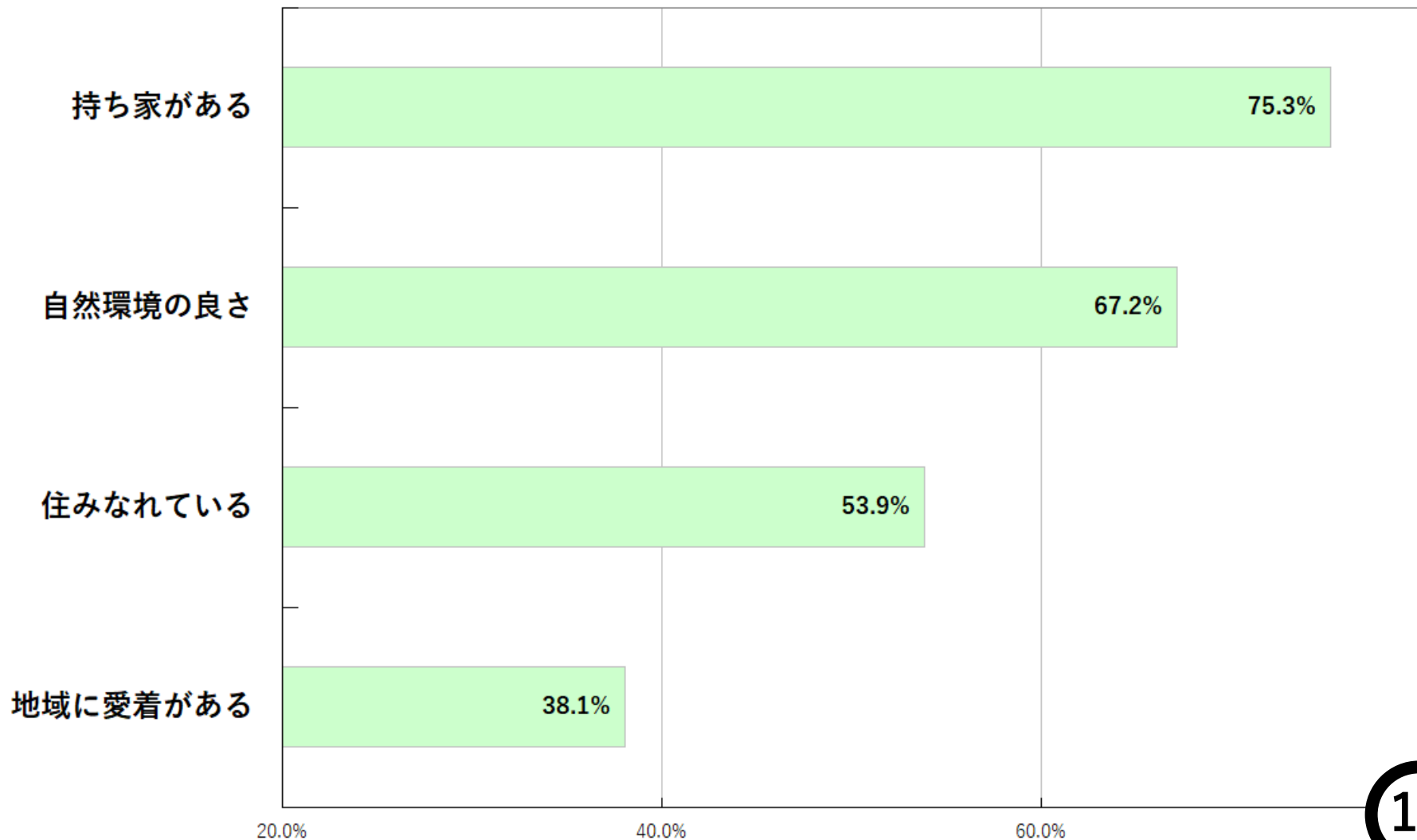
市民意識調査 <飯能市への定住意向>

- 定住意向は約8割で、以前の調査と比較しても高くなっている



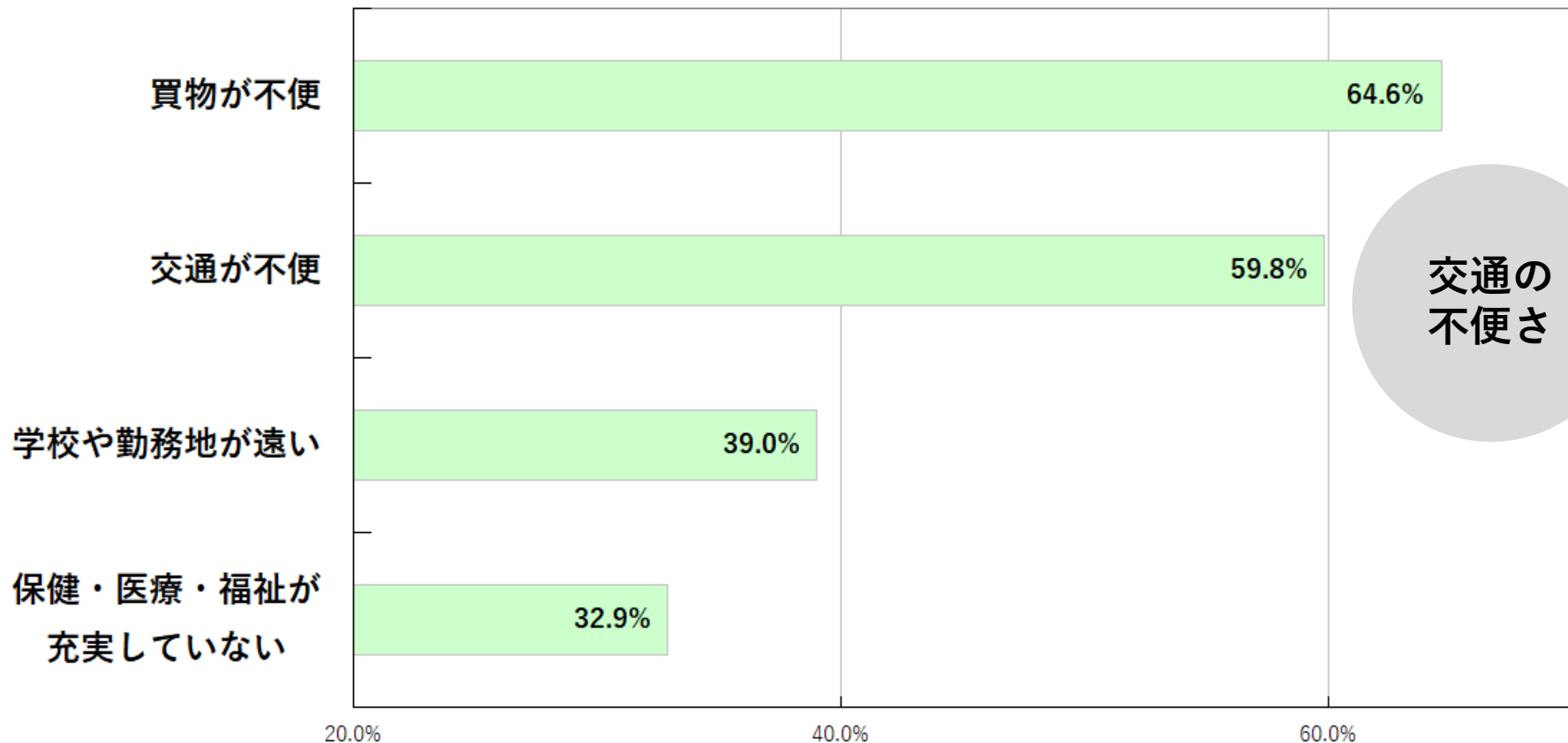
市民意識調査 <住み続けたい理由>

- 15項目のうち、3割以上が回答したものを掲載



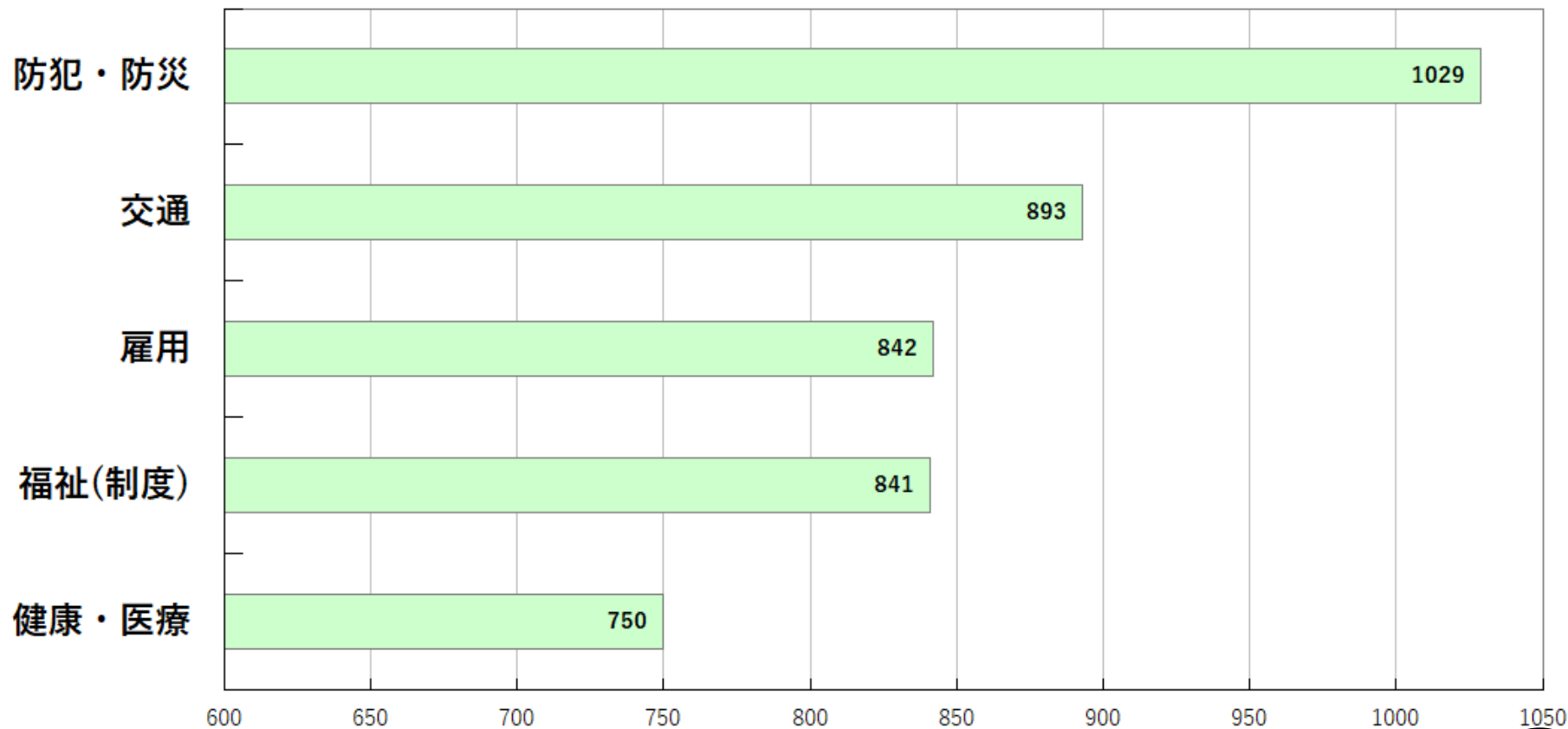
市民意識調査 < 移転したい理由 >

- 15項目のうち、3割以上が回答したものを掲載
- 買物や交通が不便であるとの回答が多く、また、学校や勤務地が遠いという回答もあることから、地域に住み続けることへの**不満要素として「交通」の問題**があることがわかる



市民意識調査 <力を入れるべき事柄>

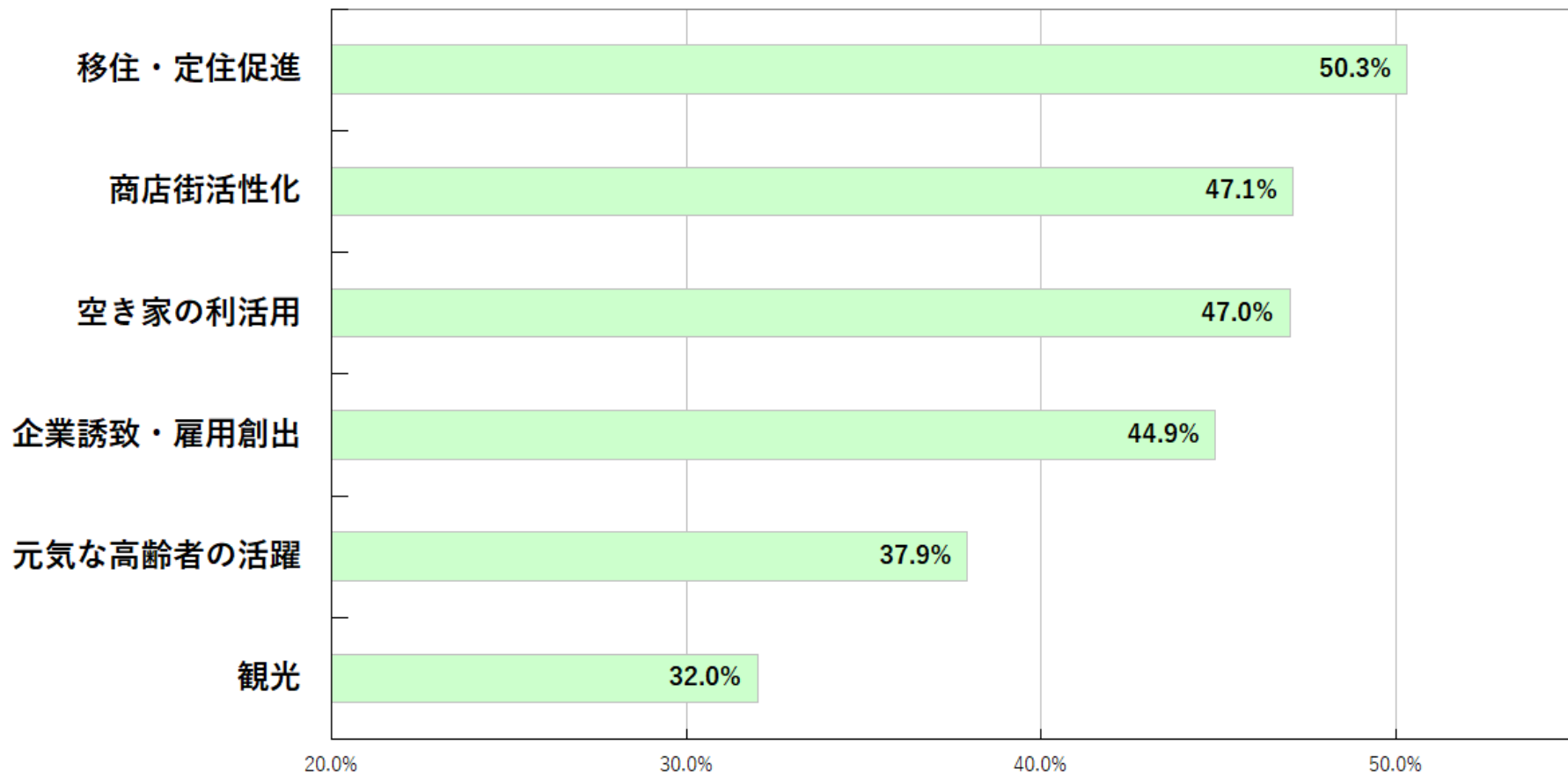
- 全19項目のうち、上位5項目を掲載
- 防犯・防災への市民ニーズが最も多く、次いで交通、雇用創出、福祉制度、健康・医療の充実の順となっている
- 移転したい理由にもなっている「交通」に対するニーズが高いことがわかる



※数値は、全19項目から優先順位1～5番目を各1つ選択し、1位～5位でそれぞれ5点～1点として集計したもの

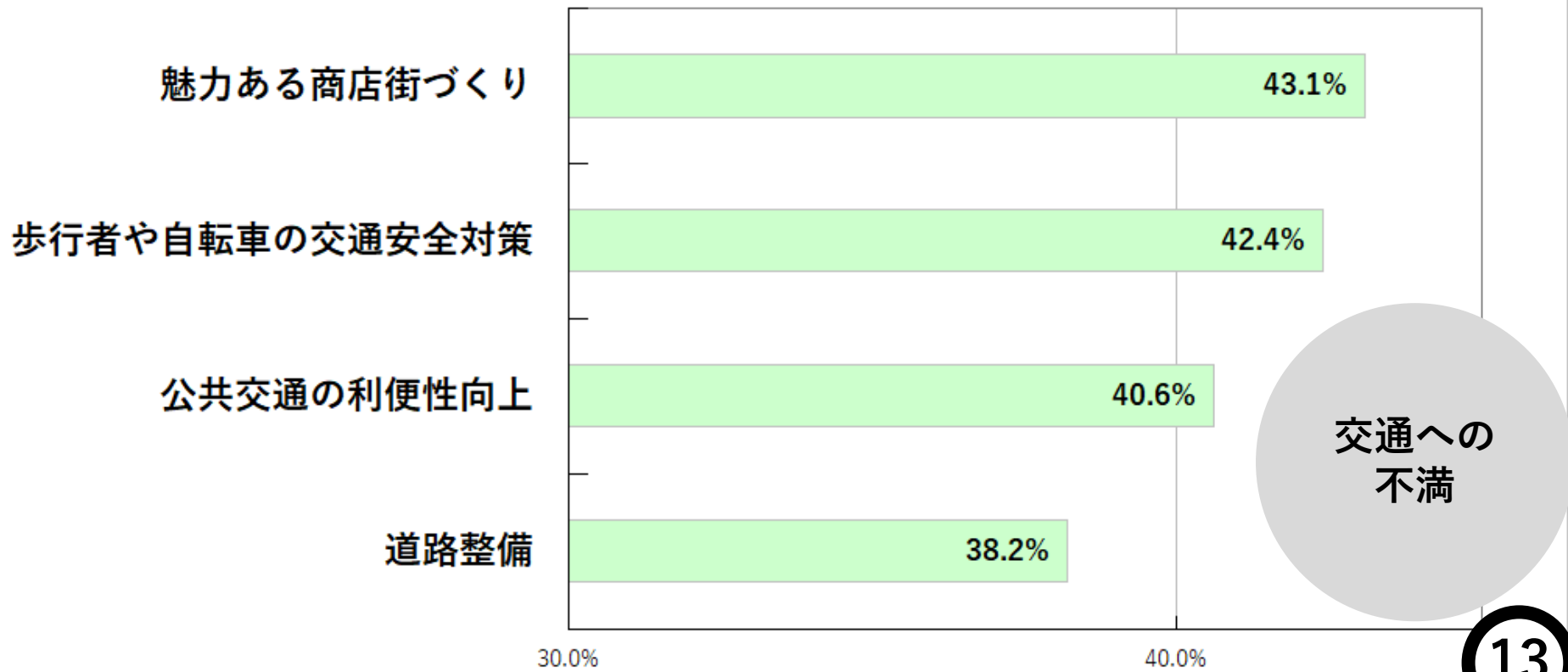
市民意識調査 <地域の活性化策>

- 15項目のうち、3割以上が「地域の活性化に有効」と回答したものを掲載
- 商店街活性化については、地域活性化策に有効であるものの、市の取組としては不十分であると感じている方が多いと考えられる
- 様々な分野において、地域の活性化策への取組が期待されていることがわかる



市民意識調査 < 施策の不満足度 >

- 53項目のうち、3割以上が「不満」と回答したのものを掲載
- 魅力ある商店街づくりは、効果的な地域活性化策として上位にあることから、ニーズが高いものと考えられる
- 交通安全、公共交通、道路整備といずれも生活に根差した交通関係の施策に対する不満足度が高かった



こんなことに取り組んでいます

< 1. 防犯・防災 >

- 防犯灯、街路灯、公園灯のLED化
- 防災行政無線のデジタル化
- 加治東地区行政センター及び加治東保育所の耐震化
- 洪水ハザードマップの作成
- 自治体間や民間事業者等との災害時協定(現在83協定、随時拡充)

< 2. 交通、道路整備 >

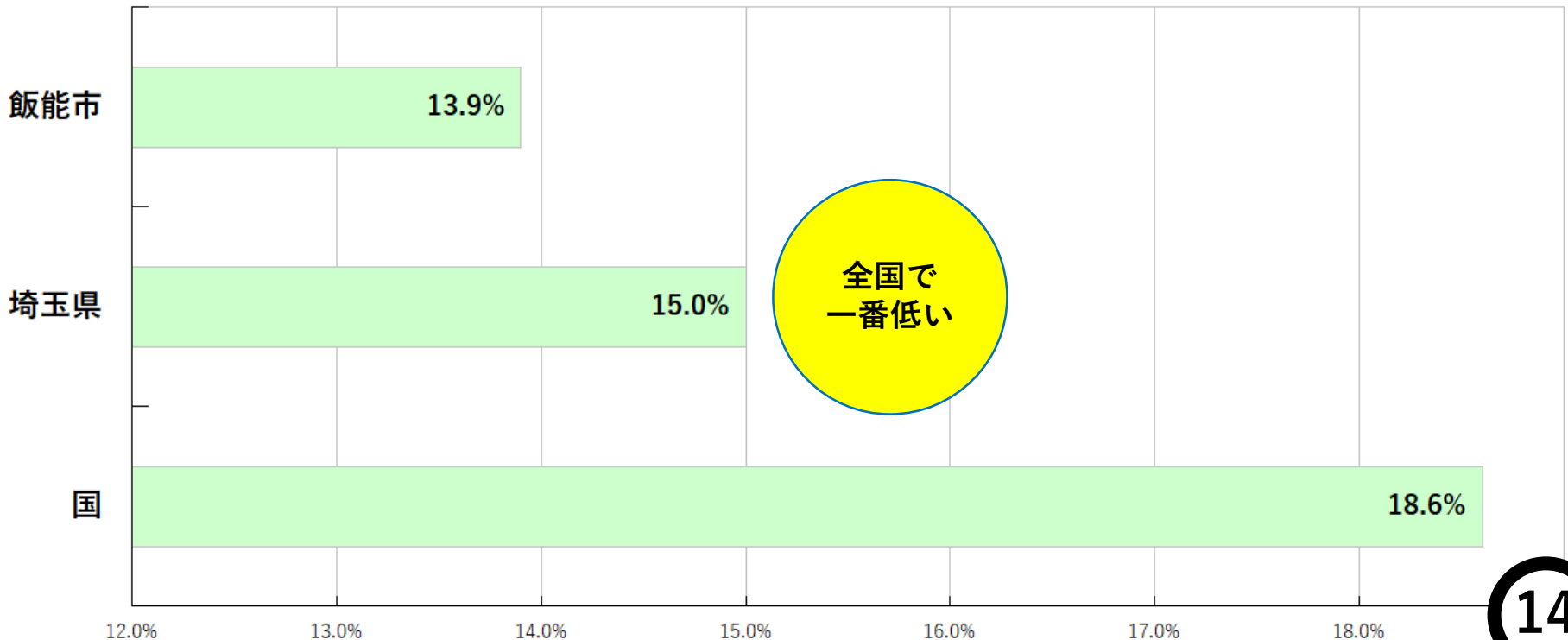
- 乗合いワゴンの実証運行開始（精明、富士見、双柳、加治、加治東）
- 福祉施設の送迎用車両を活用した移送支援（南高麗エリア）
- 奥武蔵らくらく交通、スクールバス混乗による移送支援（吾野・東吾野で）など

- 小岩井元小岩井線の整備
- 石倉唐竹線の改良
- 飯能大河原線、飯能茜台大橋の開通
- 双柳岩沢線の開通
- 阿須小久保線及び「岩沢陸橋」の開通（来春予定）
- 清川橋の架け替え
- 県道飯能下名栗線の整備促進

< 3. 元気な高齢者の活躍 >

- 各地域での支え合い活動（元気な高齢者等が支援を必要とする高齢者等を支える）の活動支援（富士見、精明、双柳、加治、美杉台、南高麗、吾野、東吾野、原市場、名栗）や仕組みづくり
- シルバー人材センターの会員増（この1年で会員数10%増）と空き家管理、家事・育児サービスなど新メニューづくり

飯能市の65歳以上の方は日本一元気！？（要介護等認定率）



< 4. 健康、医療、福祉制度 >

- 待機児童ゼロ（新規設置や認定こども園移行支援による保育所定数増）
- 中学生までの医療費ゼロ
- 中学生までのインフルエンザ予防接種費用ゼロ
- 0歳児おむつ代ゼロ（上限あり）
- コウノトリ事業（市独自の不妊治療費助成制度含む）
- 成年後見制度利用促進体制の整備
- 障害のある方の相談を受ける「すこやか福祉相談センター」の充実
- 震災避難者支援制度の拡充

< 5. 企業誘致、雇用創出 >

- 大河原工業団地や精明東部地区等における企業誘致の積極的推進
- 大河原工業団地は残り2区画も商談を進めているところ
- 企業誘致により3,400人の雇用を創出
- 企業誘致による効果額として、市税収入はこの6年間で24.4億円に
また、水道・下水道料金収入は4.7億円に（計29.1億円）
- 精明地区に「大平きのご研究所」の本社及び生産工場の誘致に成功
- 県内唯一のサテライトオフィス補助金制度の創設

<6. 商店街の活性化>

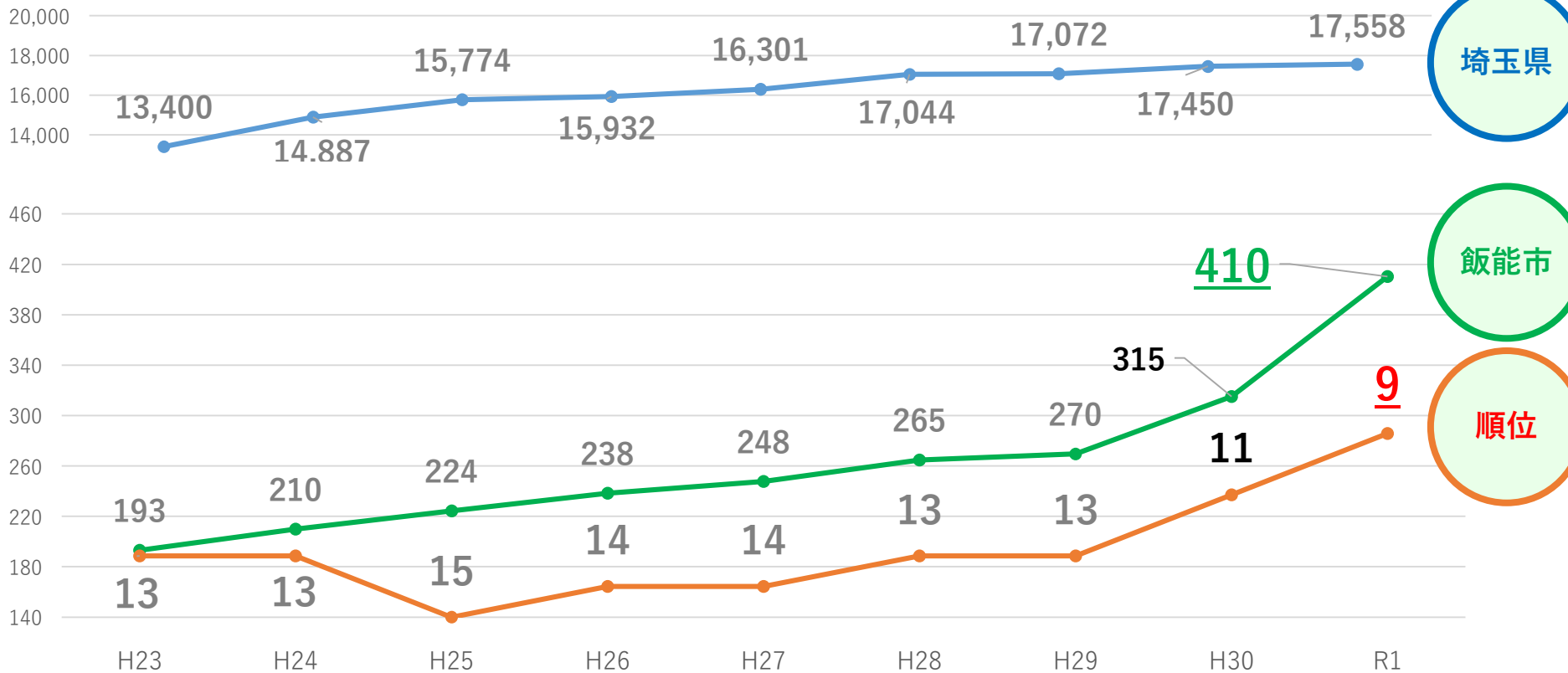
- メツツァ等の観光客の誘導
- がんばる商店街等の応援
- 新規出店者支援
- コロナ禍での支援
- 電柱地中化に向けた検討

<7. 移住・定住・空き家の利活用>

- "農のある暮らし"「飯能住まい制度」の推進と対象エリアの拡大
→**認定件数：34軒110人（R3.4月末時点）**
南高麗地区での地域をあげた移住者の受け入れ
 - 「空き家バンク制度」の推進
→**成約件数：42軒 うち、転入者28世帯60人（R3.4月末時点）**
 - 移住者に対する住宅ローンの金利優遇（市と金融機関との連携協定）
 - 山間地域の空き家を活用したサテライトオフィスの誘致
-
- 旧東吾野小学校の利活用（早稲田学園による新校設置を予定）
 - 旧吾野小学校の利活用（地域とイオンファンタジーとが利活用策を検討中）

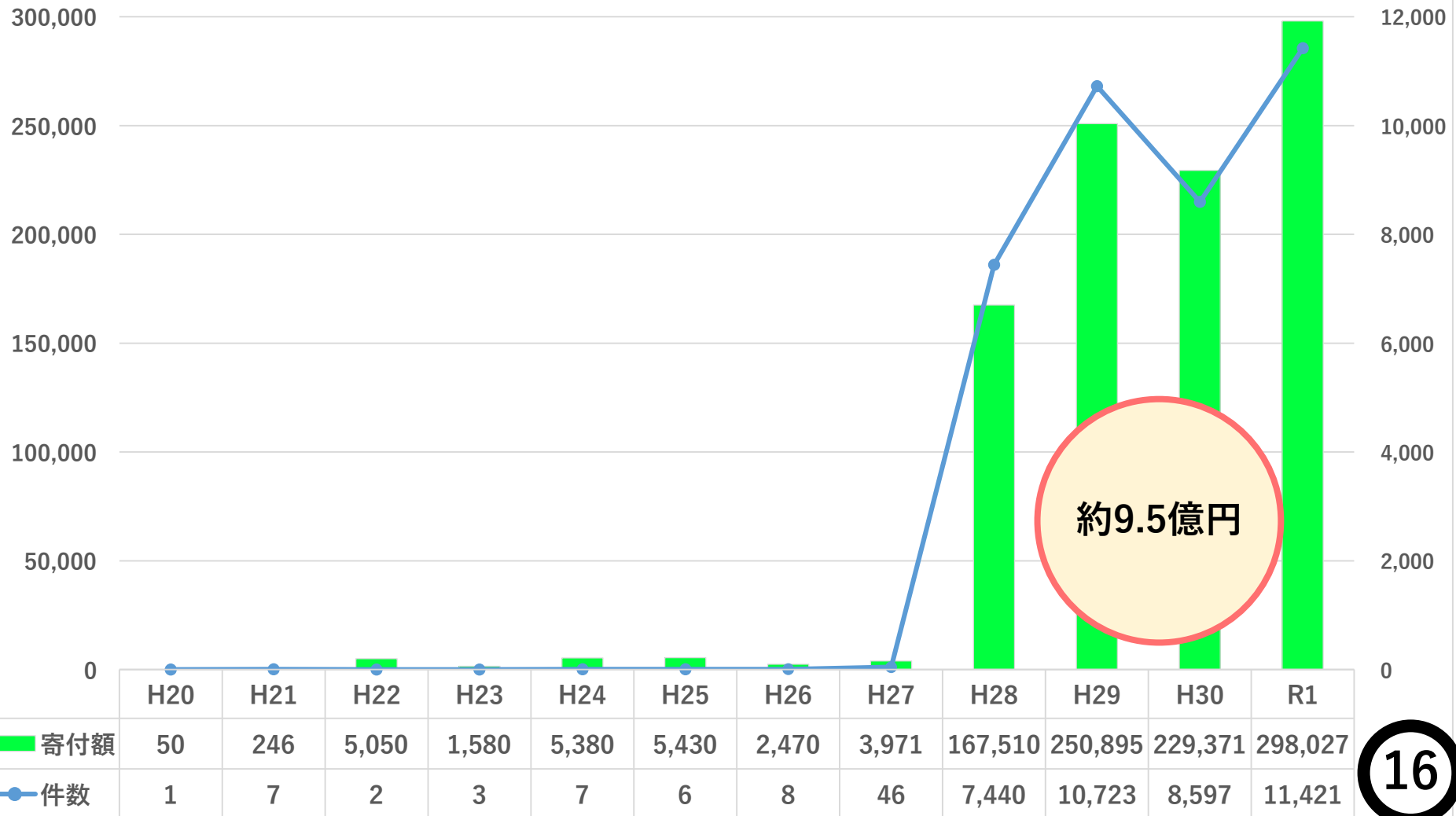
< 8. 観光推進 >

- 「メッツァ」のオープン（フィンランド以外で初めてのムーミンのテーマパーク）
- 「ノーラ名栗」のオープン（北欧の雰囲気を感じられる名栗の新たな観光拠点）
- 「OH!!!」のオープン（発酵のテーマパーク、天覧山の麓 能仁寺の隣）
- 「トーベ・ヤンソンあけぼの子ども森公園」の夜間ライトアップ
- 「HANNO GREEN CARNIVAL」（ソニーミュージック・エンタテインメント主催）支援
（会場：トーベ・ヤンソンあけぼの子ども森公園、メッツァ） などなど



<9. ふるさと納税>

- 県内で3番目の寄附額(H30、R1) 1位 秩父市 2位 深谷市 3位 飯能市
- 県内で2番目の寄附件数(H29、H30、R1) 1位 深谷市 2位 飯能市



<10. 新型コロナウイルス対策>

- 特別定額給付金を県内最速で給付
 - 子育て世帯への臨時特別給付金の迅速な給付
- （約80.9億円）

- 市独自の緊急経済対策等（約16.6億円）
（新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用）

◆市内事業者への支援（約7.9億円）

小規模事業者（約1,800社）
テイクアウト事業者（約40社）
感染予防対策事業者（約270社）
観光関連事業者（約20社）
地域公共交通事業者（7社）
学校給食関連事業者（23社）
飲食店納入事業者（約500社）
商店街（7商店街）、ゴルフ場（9ヵ所）
廃棄物処理事業者（4社）
私立保育園、幼稚園、放課後児童クラブ
（35ヵ所）

◆子育て世帯への支援（約2.2億円）

子育て世帯臨時特別給付金
ひとり親世帯への臨時特別給付金
赤ちゃんクーポン臨時支援券給付
保育所保育料減免
放課後児童クラブ利用料減免

◆生活支援（約1.1億円）

水道料金減免
学生・離職者の雇用創出

こんなことに取り組みます！ <後期計画で集中的に取り組むこと>

～すべての地域が光り輝くために～

将来都市像を実現し、「このまちに住んで良かった」と思える人を一人でも増やすために、資産の有形・無形にこだわることなく、各地区の特性や新たな可能性を見出し、飯能市で「生活することの価値」を高めていきます。

核となる考え方



定住人口対策

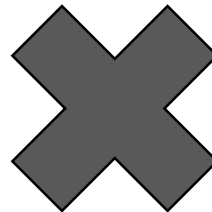
- ・特に若者世代の流出抑制
- ・あらゆる世代の流入促進



75%の森林の利活用

※森林以外の用途も含む

- ・森林のゾーニング
- ・林業だけでない利活用の検討



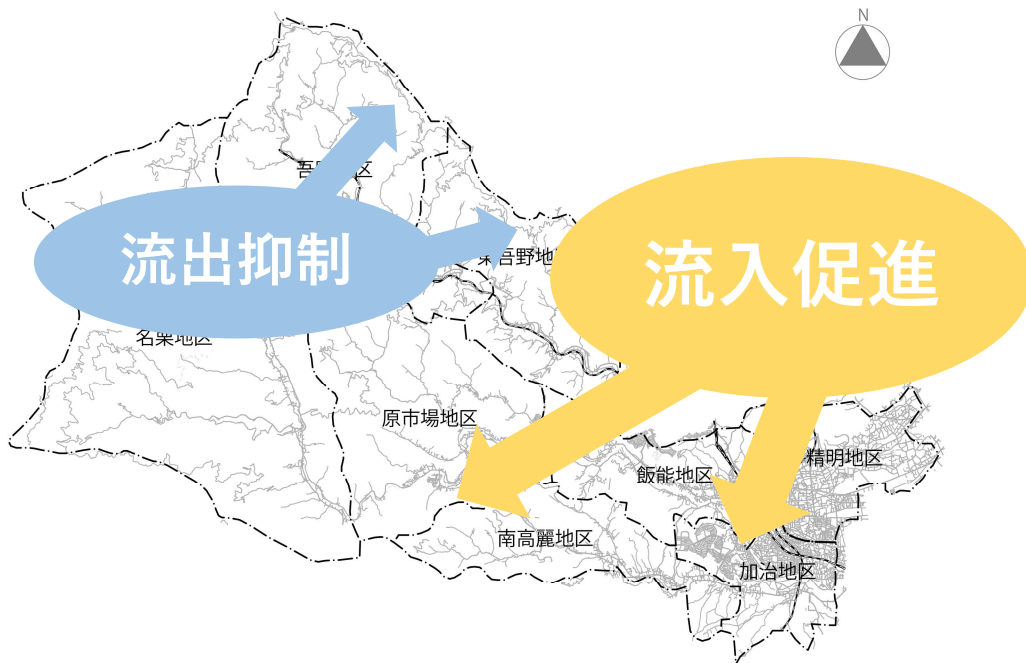
定住人口対策

人口減少問題

- ・ 山間5地区では直近5年間で約10%の人口減少
- ・ 生産年齢人口(15~64歳)はこの20年間で約1万人減少
- ・ 20代の若者世代の市外への流出

⇒ 地域経済の衰退、財政状況の圧迫、地域の存続...日々の暮らしに大きな影響

各施策の一体的な推進！



移住定住策

資産価値向上策

子育て支援

観光推進

雇用創出

企業誘致

シティプロモーション

75%の森林の利活用

山間地域には、「**森林**」という大きな資源がある！

しかし課題も...

- ・ 国産材の利用低迷や林業後継者の高齢化
- ・ 森林の公益的機能※の低下

(※水や大気の循環、生物多様性の保全、レクリエーションの場など)

⇒ 継続的な森林の管理や機能の維持が困難に。

林業だけではない、新たな森林の利活用はできないだろうか？



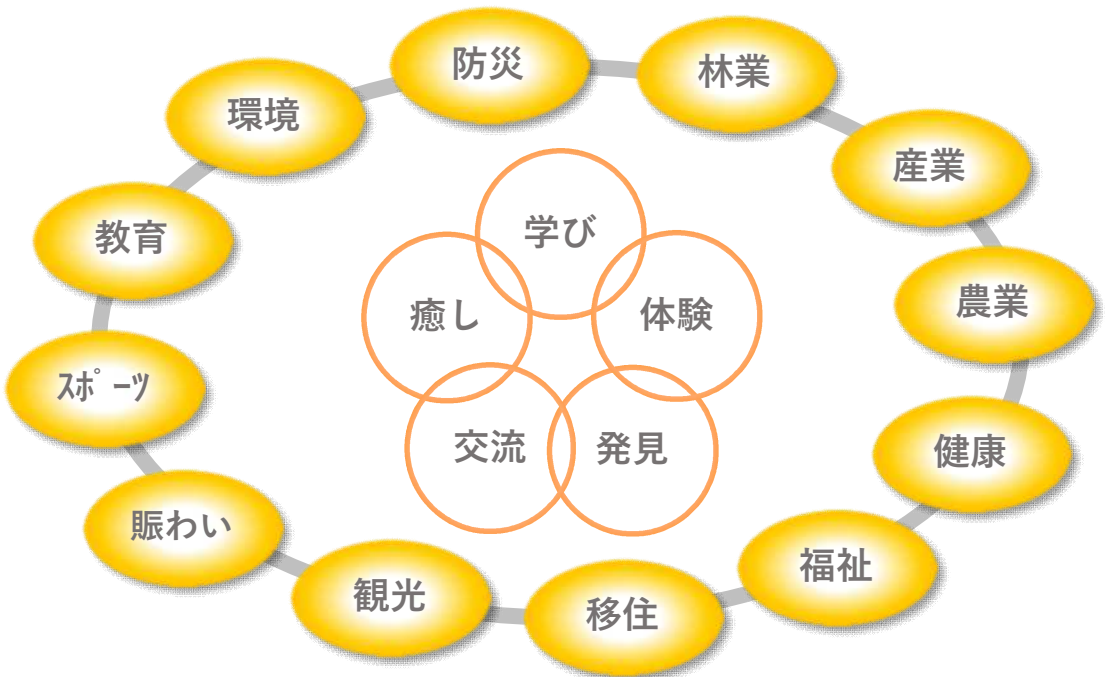
森林の " ゾーニング " による新たな利活用

< 例えば >

- 1 針広混交林に戻す「共存・共生の森」
- 2 木材生産を進める「林業の森」
- 3 里山の森林空間を生かしたサービスを提供する「水と緑の交流の森」
- 4 森林以外にも用途を広げた活用

森林を適正に管理し、将来にわたって維持していくためにも、**森林資源を最大限に活用したまちづくり**を進めていきたい。

< 森林の保全・活用への取組をあらゆる分野で展開 >



飯能市で森林のすべてを体験できる

みなさんは、
これからの飯能市を
どうしていききたいですか？

ぜひ、ご意見をお聞かせください。